

練馬区次世代育成支援行動計画策定に係る ニーズ調査報告書

< 概要版 >

目 次

調査の目的	1
調査の構成	1
練馬区の少子化状況の概要調査	1
サービス利用者等のニーズ調査	7
- 1 就学前・小学校児童家庭の調査結果	7
- 2 中学生、高校生の調査結果	22
- 3 独身及び子どものない世帯、子育て中及び子育て終了世帯の調査結果	30
- 4 子育て施設従事者の調査結果	36
- 5 子育て意識の変遷と子育てに関する意識の比較	40

平成16年3月

練馬区

この冊子の見方

- ・調査結果の数値は、回答率(%)で表示しています。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数は合計及びNで示しています。
- ・回答率(%)については、小数点以下第2位を四捨五入し、少数第1位までを表示しています。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合があります。
- ・回答には、単数回答(は1つ)と複数回答(はいくつでも)の2種類があります。複数回答の場合、その回答率(%)の合計は100%を超える場合があります。
- ・調査結果の「居住地区」は総合福祉事務所管轄で区分しています。

地 区	町 名
練 馬	旭丘、向山、小竹町、栄町、桜台、豊玉上、豊玉北、豊玉中、豊玉南、中村、中村北、中村南、貫井、練馬、羽沢
光が丘	旭町、春日町、北町、田柄、高松、土支田、錦、早宮、氷川台、光が丘、平和台
石神井	上石神井、上石神井南町、下石神井、石神井台、石神井町、関町北、関町東、関町南、高野台、立野町、富士見台、南田中、三原台、谷原
大 泉	大泉学園町、大泉町、西大泉、西大泉町、東大泉、南大泉

調査の目的

少子化の主な要因とされる晩婚化・未婚化に加え、夫婦における出生力の低下という新たな現象が指摘されている。いまだ進行し続ける少子化の流れを変えるため、従来の取り組みに加え、もう一步踏み込んだ対策を推進することが必要であるとして、平成15年7月に「次世代育成支援対策推進法」が制定された。同法は、次世代育成支援対策に関する国、地方公共団体、事業主及び国民の責務を明示した。これにより、練馬区においても地域版としての、「次世代育成支援行動計画」を平成16年度中に策定することが義務付けられることになった。

練馬区では、平成9年度に「練馬区子ども家庭支援計画」を策定し、様々な子育て支援事業を推進してきた。本調査は、これまでの練馬区の子育てに係る取り組みを踏まえ、子育てに係る様々な状況とニーズを把握することで、「次世代育成支援行動計画」策定のための基礎資料とすることを目的としている。

調査の構成

本調査は以下の2部から構成される。

1. 練馬区の少子化状況の概要調査
2. サービス利用者等のニーズ調査

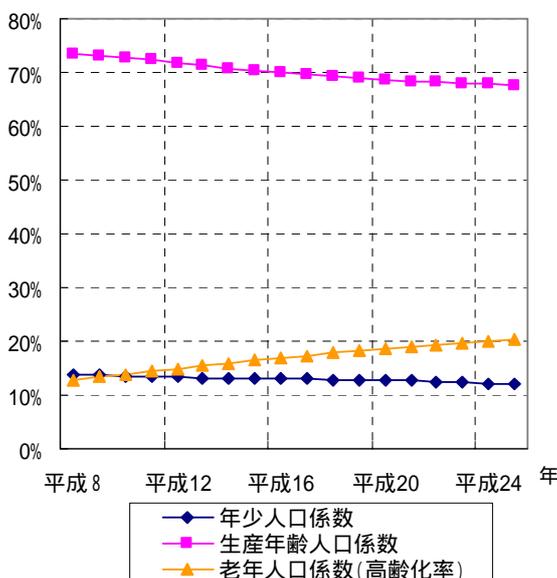
練馬区の少子化状況の概要調査

1. 少子化の状況

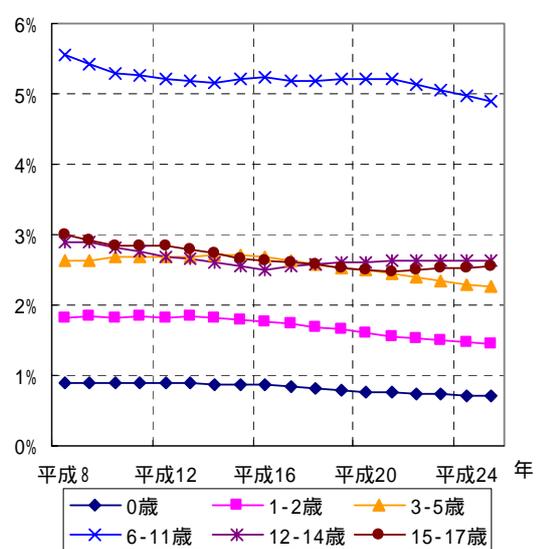
人口と世帯について

総人口に占める0～14歳の年少人口については、特に0歳、1～2歳、3～5歳、6～11歳とも低下が見込まれ、このままでは一層の少子化が進行していくことが予測される。

年少人口、生産年齢人口、老年人口の割合の推移



区人口に占める18歳未満児童の割合の推移

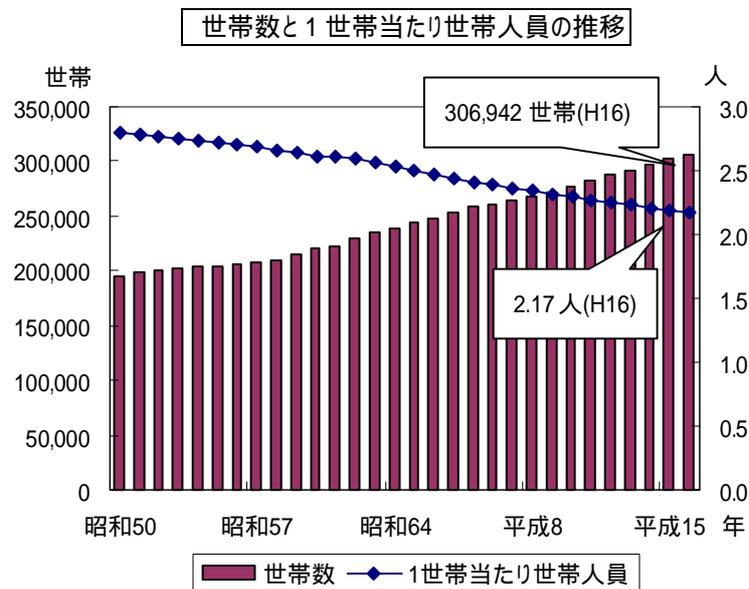


(住民基本台帳、外国人登録原票、平成8～16年4月1日現在、平成17年以降は国の指針に基づく推計値)

注) 年少人口係数・・・0歳～14歳人口割合、生産年齢人口係数・・・15歳～64歳人口割合、老年人口係数・・・65歳以上人口割合

世帯数は昭和 50 年以降ほぼ一貫して増加している。一方、1世帯当たり世帯人員はほぼ一貫して減少している。背景としては、核家族化と単独世帯化が進んでいることが挙げられる。

核家族化と単独世帯化の進行に伴い1世帯当たり世帯人員は減少

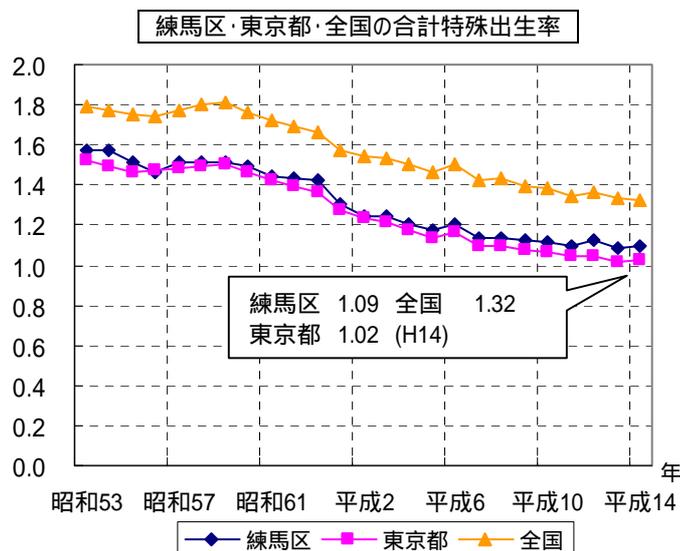


(住民基本台帳、各年1月1日現在)

出生の状況について

1人の女子が一生の間に生む子ども数に相当する合計特殊出生率は、平成5年まで低下し続け、その後もわずかに減少し、平成13年に1.08と最低となった。平成14年は1.09人である。全国と比較すると各年とも0.25人程度下回っており、かなり低い水準で推移している。一方、東京都と比較すると各年とも0.05人程度上回っており、やや高い水準で推移している。

合計特殊出生率は1.09であり、全国よりかなり低く、東京都よりわずかに高い

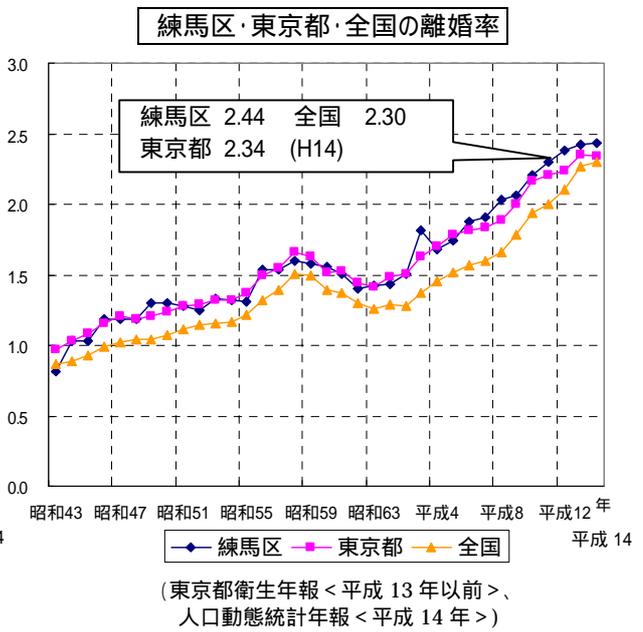
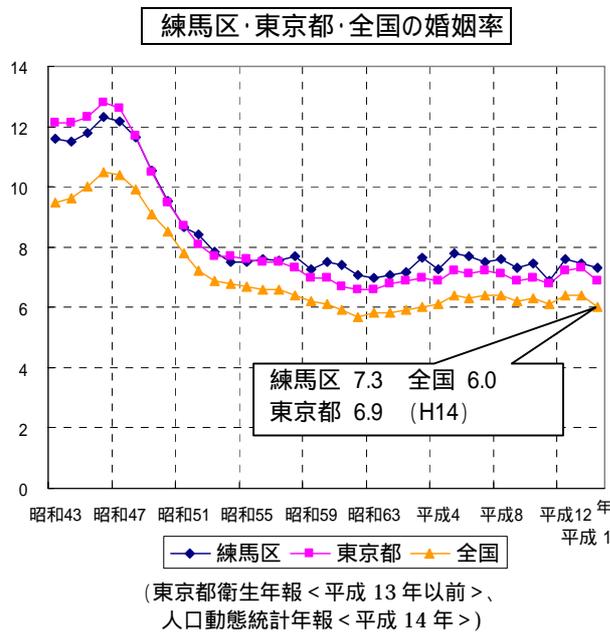


(練馬区:練馬区保健所保健管理課資料、東京都、全国:東京都衛生年報<平成13年以前>、人口動態統計年報<平成14年>)

婚姻と離婚の状況について

婚姻率は昭和46年に人口千人当たり12.3と戦後最高となったが、その後5年間で急速に低下し、この最近25年間は7.0~8.0とほぼ横ばいで推移している。平成11年に最低6.9と昭和40年以降の最低となり、平成14年は7.3である。一方、離婚率は、昭和40年以降ほぼ一貫して上昇傾向にあり、平成14年には人口千人当たり2.44と戦後最高となった。

平成 14 年の婚姻率は 7.3、ここ 25 年間 7.0～8.0 で推移、一方、平成 14 年の離婚率は 2.44 と戦後最高、ここ 25 年間ほぼ一貫して上昇



2. 子育て支援の取り組み

保育所の状況について

保育所の定員数は増加しているが、待機児数は解消されない状況にある。しかしながら、定員割れしている保育所も存在しており、待機児が地域的に偏って存在していることも考えられる。一方、認可外保育所サービスでは、駅型保育施設数が増加しており、需要の高さが伺える。

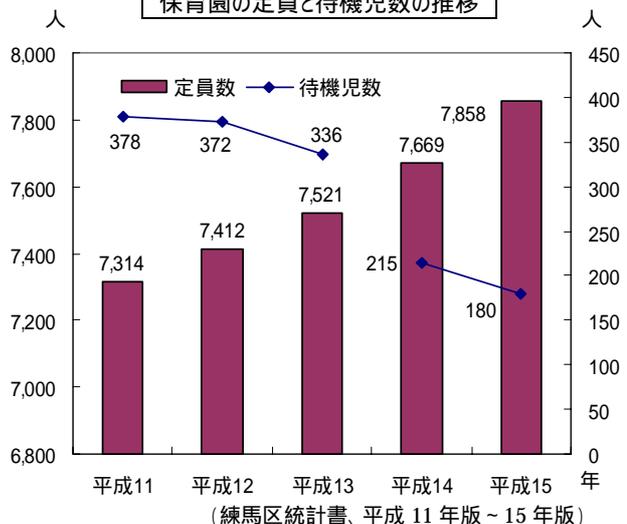
解消しない待機児数

児童年齢別保育園定員数・在籍児数

年齢	定員(人)			在籍児数(人)		
	区立	私立	合計	区立	私立	合計
総数	6,374	1,484	7,858	6,119	1,438	7,557
0歳	556	84	640	443	70	513
1歳	952	203	1,155	929	202	1,131
2歳	1,101	273	1,374	1,093	269	1,362
3歳	1,199	300	1,499	1,196	308	1,504
4歳	1,268	307	1,575	1,222	306	1,528
5歳	1,298	317	1,615	1,236	283	1,519

(練馬区統計書、平成15年版、平成15年4月1日現在)

保育園の定員と待機児数の推移



平成13年以前の待機児数には、保育室・家庭福祉員在籍児のうち、認可保育所入所希望者を含む。

保育室、家庭福祉員、駅型グループ保育室、認証保育所の状況

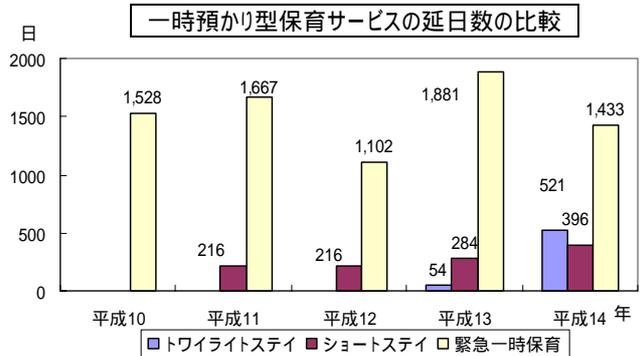
年度	保育室		家庭福祉員		駅型グループ保育室			認証保育所(駅前基本型)	
	施設数 (室)	定員数 (人)	福祉員 数(人)	定員数 (人)	グループ 保育室(室)	福祉員 数(人)	定員数 (人)	施設数 (室)	定員数 (人)
平成 11	15	293	50	142	3	11	33		
平成 12	14	282	52	149	5	17	51		
平成 13	15	311	50	144	7	21	63		
平成 14	15	318	46	131	8	25	75	1	30
平成 15	14	289	45	126	8	25	75	3	89

(練馬区統計書、平成 15 年版、各年度 4 月 1 日現在 * 認証保育所のみ、練馬区勢概要、各年度 4 月 1 日現在)

一時預かり型保育サービスについて

平成 13 年度に開始したトワイライトステイ(夜間一時保育)は延日数が大幅に増加しており、需要の高さが伺える。

夜間のサービスの需要が高まっている



(練馬区勢概要、平成 11 年版～平成 15 年版)

育児支えあい(ファミリーサポート)について

延時間数が増加傾向、特に夜間の利用が多い状況

育児支えあいの状況

年度	利用者数 (人)	援助者数 (人)	延時間数 (時間)	時間帯ごとの利用者数(複数回答)			
				7～9時	9～12時	12～17時	17～20時
平成 11	541	121	1,515	55	138	247	268
平成 12	1,151	214	14,977	1,472	961	1,838	3,799
平成 13	964	226	28,238	3,361	1,680	4,650	7,041
平成 14	1,929	295	34,174	4,369	2,162	5,861	9,341

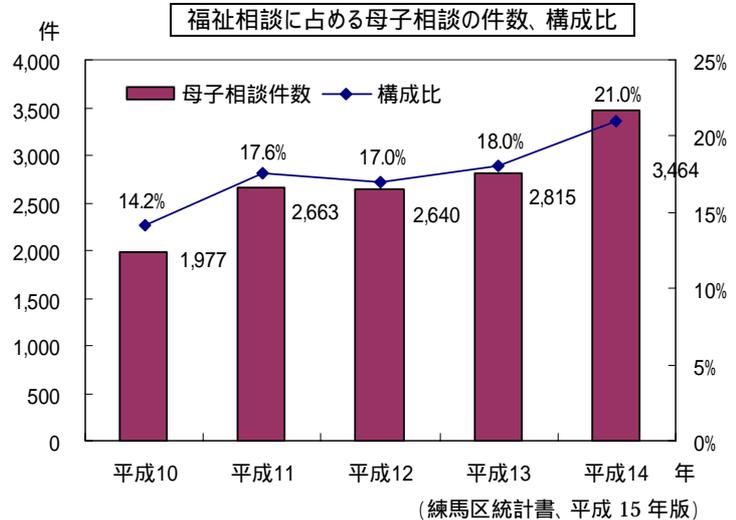
(練馬区子育て支援課資料、平成 15 年)

- 平成 12 年 1 月から事業開始。
- 平成 14 年 1 月末、会員登録更新(2 年毎更新)を行ったため、一時的に登録者数が減っている。

相談件数について

福祉相談における母子相談の件数は増加傾向にあり、ここ5年間で約1.8倍の件数になっている。また、構成比も1.5倍になっており、子育てに関する相談窓口の重要性が高まっていることがわかる。

母子相談件数はここ5年間で約2倍

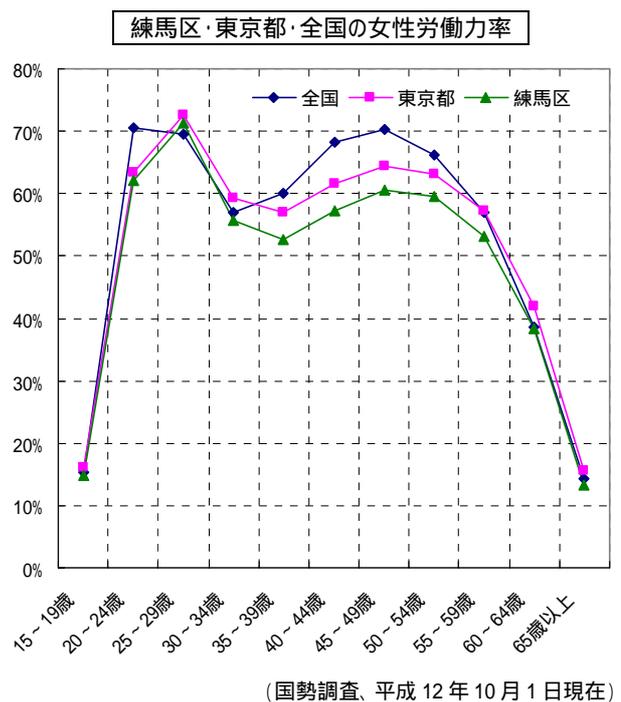
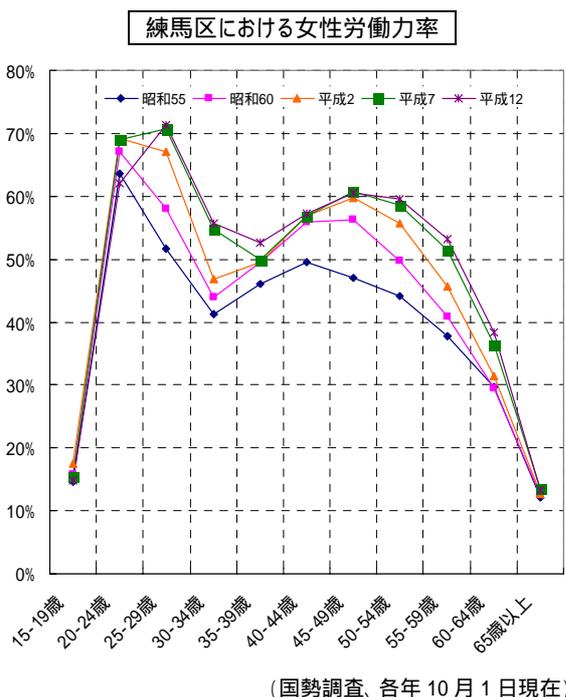


3. 職業と家庭の両立

女性の労働力について

女性の労働力率を年齢階級別に比較すると、20歳代が高く、その後子育てに関わる30歳代で一旦大きく低下し、子どもが小学校高学年以降となる40歳以降で再び上昇、55歳以降で低下するいわゆる「M字曲線」を描いている。また、時系列で比較すると、25歳以降の全年齢階級で労働力が上昇するとともに、M字の底が浅くなる傾向が見られる。一方、全国・東京都と比べて30歳以降の労働力率が低く、出産で離職し、そのまま職に就かない女性の割合が高い。

女性の労働力率はM字曲線を描いている。出産後働かない割合が全国より高い。



女性の職業について

管理職のような責任ある職業の比率が高まり、女性の社会進出が進む

職業別・女性の15歳以上就業者数

職業	平成2年			平成7年			平成12年		
	総就業者数(人)	女性		総就業者数(人)	女性		総就業者数(人)	女性	
		総数(人)	割合(%)		総数(人)	割合(%)		総数(人)	割合(%)
総数	320,247	117,202	36.6	330,557	124,885	37.8	324,075	127,026	39.2
専門的・技術的職業従事者	52,436	18,573	35.4	54,590	20,447	37.5	57,788	22,214	38.4
管理的職業従事者	18,947	1,689	8.9	18,453	1,770	9.6	11,617	1,306	11.2
事務従事者	76,885	47,560	61.9	79,783	49,221	61.7	78,149	48,396	61.9
販売従事者	58,250	17,523	30.1	60,657	19,556	32.2	59,892	18,480	30.9
サービス職業従事者	23,582	12,669	53.7	27,096	15,231	56.2	30,003	17,155	57.2
保安職業従事者	4,661	239	5.1	5,440	412	7.6	5,666	438	7.7
農林漁業作業従事者	1,861	650	34.9	1,819	591	32.5	1,570	512	32.6
運輸・通信従事者	11,230	671	6.0	11,585	678	5.9	11,025	501	4.5
生産工程・労務作業従事者	66,882	15,234	22.8	65,933	14,707	22.3	60,361	14,530	24.1
分類不能の職業	5,513	2,394	43.4	5,201	2,272	43.7	8,004	3,494	43.7

(国勢調査、各年10月1日現在)

4. 長期欠席、虐待などに関する状況

長期欠席について

長期欠席児童・生徒数は、ここ5年で小学校で約1.7倍、中学校で約1.3倍に増加している。

増える長期欠席児童・生徒数

小学校・中学校における長期欠席児童・生徒数の状況 (人)

年度	小学校					中学校				
	病気	経済的理由	不登校	その他	計	病気	経済的理由	不登校	その他	計
平成10	83	0	100	32	215	46	0	410	22	478
平成11	180	0	120	60	360	73	1	444	30	548
平成12	204	1	127	92	424	83	1	473	67	624
平成13	228	0	120	99	447	93	1	449	48	591
平成14	166	0	129	79	374	76	1	503	35	615

(練馬区教育要覧、平成11年版～平成15年版)

虐待・ぐ犯・触法等の状況について

ぐ犯の相談件数は減少しているにもかかわらず、虐待の相談件数が増加している。

急激に増加している虐待相談

練馬区・東京都における虐待等の相談件数 (件)

年度	練馬区				東京都	
	受理件数	虐待	ぐ犯	触法	受理件数	虐待処理件数
平成12	1,706	73	63	26	31,807	1,700
平成13	1,363	99	41	31	31,584	2,098
平成14	1,395	103	39	10	30,497	1,802
平成15	443	64	20	14	-	-

(練馬区子育て支援課資料、平成15年、東京都児童相談所のしおり、平成15年 *平成15年度は4～10月のデータ)

サービス利用者等のニーズ調査

- 1 就学前・小学校児童家庭の調査結果

1. 調査仕様

	就学前児童家庭	小学校児童家庭
調査地域	区全域	区全域
調査対象	区内に在住する就学前児童（末子が0歳から5歳）の保護者	区内の12小学校の各学年より選定した1クラス全員の児童の保護者
標本数	1,840件	1,984件
抽出方法	住民基本台帳登録者のうち、平成9年4月2日以降生まれの者が末子である世帯を無作為抽出	各地区の対象児童の人口バランスを考慮し、それぞれ1～2校選定
調査方法	調査員による訪問留置・回収法	学校を經由して配付、回収
調査期間	平成16年3月6日～22日	平成16年3月1日～19日
回収数	1,023件	1,425件
・回収率	有効回答率 = 55.6%	有効回答率 = 71.8%

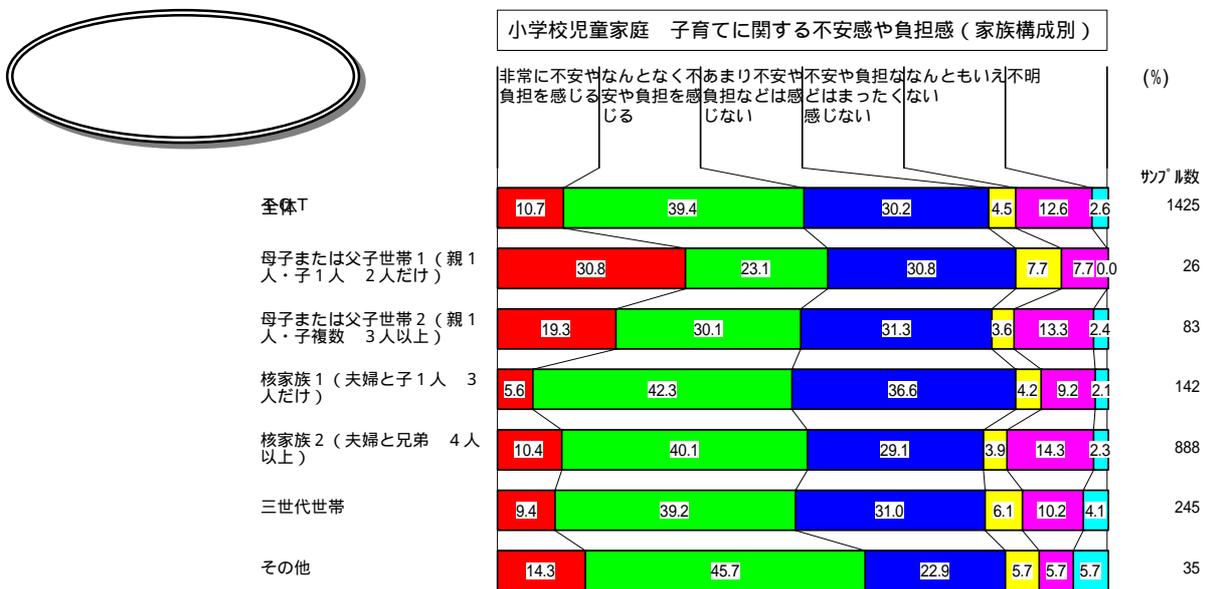
2. 調査結果の概要

子ども、家族の状況

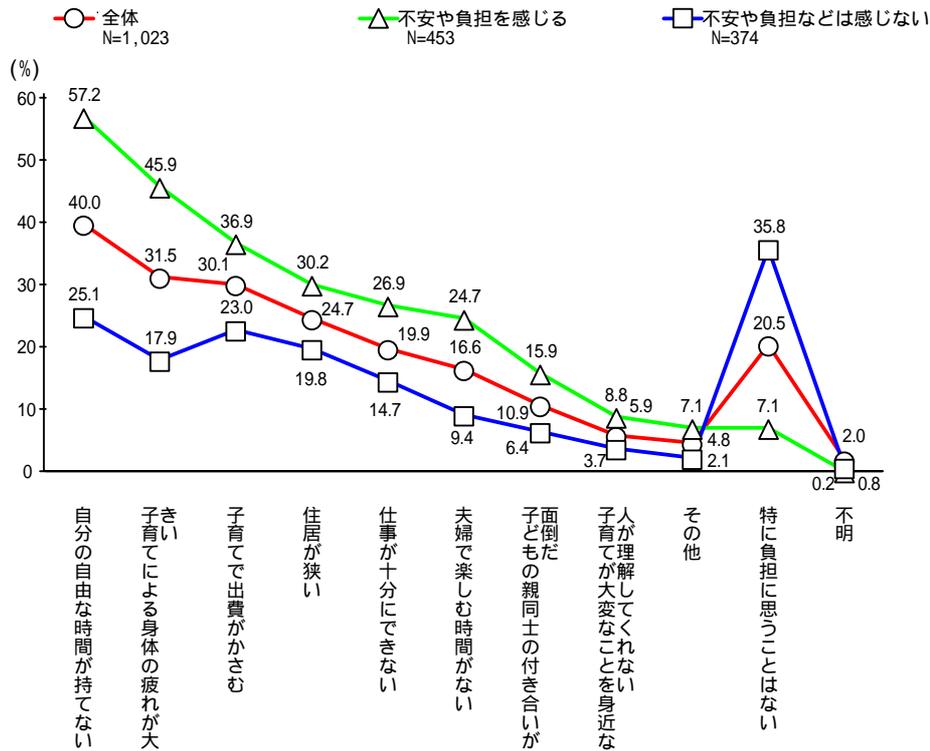
就学前児童家庭の構成は、「夫婦と子ども1人の家族」が46.5%、「夫婦と子ども2人以上の家族」が31.6%。なお、「母子または父子家庭」は3.9%、「三世帯世帯」は15.3%。
 小学校児童家庭の構成は、「夫婦と子ども1人の家族」が10.0%、「夫婦と子ども2人以上の家族」が62.3%。なお、「母子または父子家庭」は7.6%、「三世帯世帯」は17.2%。
 就学前児童家庭では、父親の68.3%が「常勤(会社員・公務員など)」、24.4%が「自営業・事業主」、母親の60.1%が「働いていない」、11.4%が「パート、アルバイト」、11.2%が「常勤(会社員・公務員など)」。

子育てについて

子育てに関する不安や負担意識の強い母子または父子家庭。
 「自分の自由な時間が持てない」、「子育てによる身体の疲れが大きい」など、不安や負担感の大きいタイプと小さいタイプとで大きな意識の乖離がある。



就学前児童家庭 子育てをするうえで特に負担を感じていること、悩んでいること
(不安感や負担感の有無タイプ比較)



子育てに関する情報入手先は、就学前児童家庭の 62.5%、小学生児童家庭の 72.8%が「隣近所の人」、「地域の知人、友人」。

子育てに関する
情報入手先

[就学前児童] N = 1,023 複数回答

- 1位 隣近所の人、地域の知人、友人 62.5%
- 2位 その他の親族（親、兄弟姉妹など） 56.6%
- 3位 保育園、幼稚園、学校 45.7%

[小学校] N = 1,425 複数回答

- 1位 隣近所の人、地域の知人、友人 72.8%
- 2位 保育園、幼稚園、学校 61.1%
- 3位 テレビ、ラジオ、新聞 51.4%

子育てに関する不安や負担があるときには、就学前児童家庭の 84.1%、小学生児童家庭の 73.6%が「配偶者・パートナー」に相談。

悩みや不安などの
相談相手

[就学前児童] N = 1,023 複数回答

- 1位 配偶者・パートナー 84.1%
- 2位 その他の親族（親、兄弟姉妹など） 67.4%
- 3位 隣近所の人、地域の知人、友人 50.8%

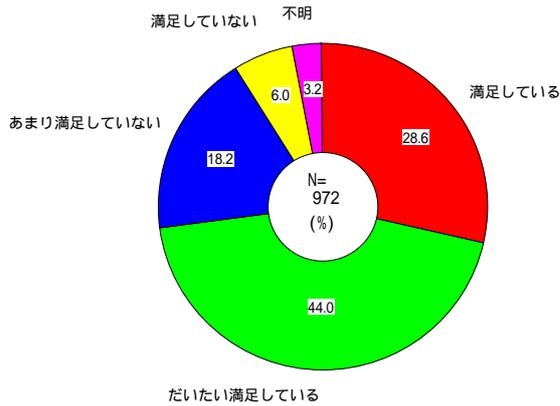
[小学校] N = 1,425 複数回答

- 1位 配偶者・パートナー 73.6%
- 2位 隣近所の人、地域の知人、友人 66.0%
- 3位 その他の親族（親、兄弟姉妹など） 58.8%

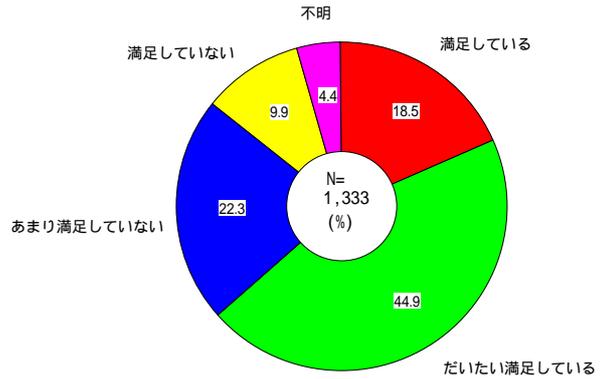
就学前では7割を超える配偶者・パートナーの育児参加の満足度に比べ、小学校ではやや減少。
 配偶者・パートナーによる「気遣い」、「子どもと遊ぶ」、「子どもと入浴」が満足度向上のためには重要。

配偶者・パートナーの子育て参加

就学前児童家庭 配偶者・パートナーの育児参加の仕方への満足度

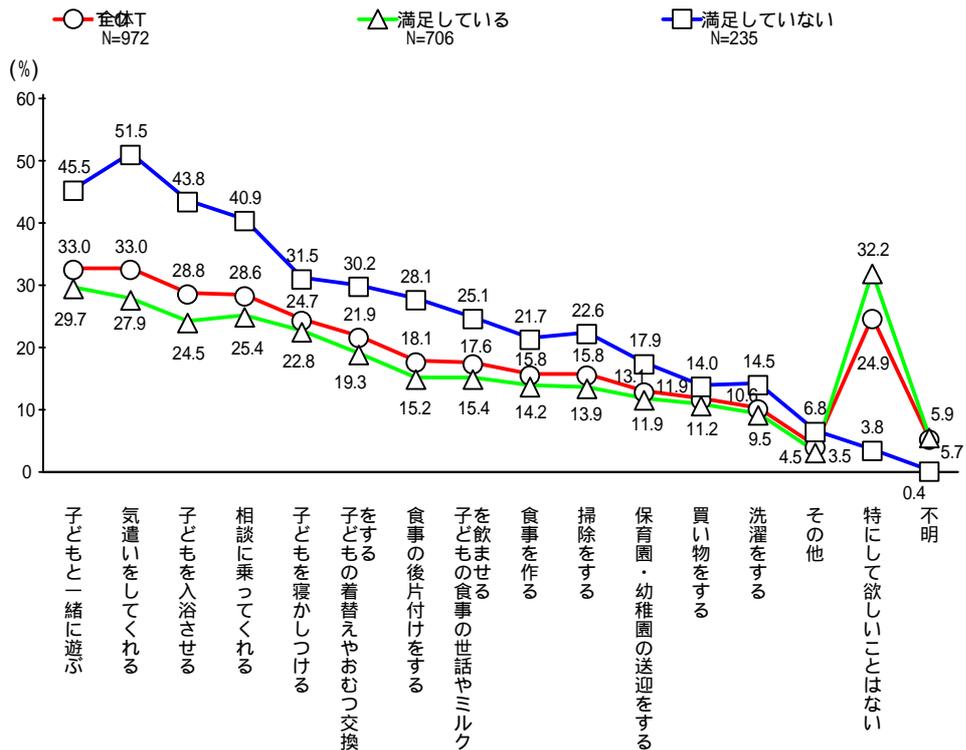


小学校児童家庭 配偶者・パートナーの育児参加の仕方への満足度



配偶者・パートナーへの要望

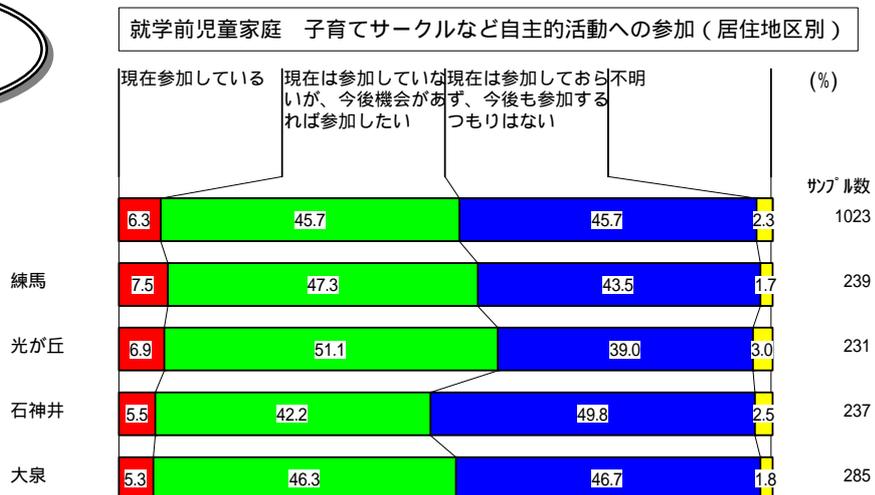
就学前児童家庭 配偶者・パートナーに育児参加をして欲しいと思う(思った)こと
 (子育て参加形式への満足度タイプ比較)



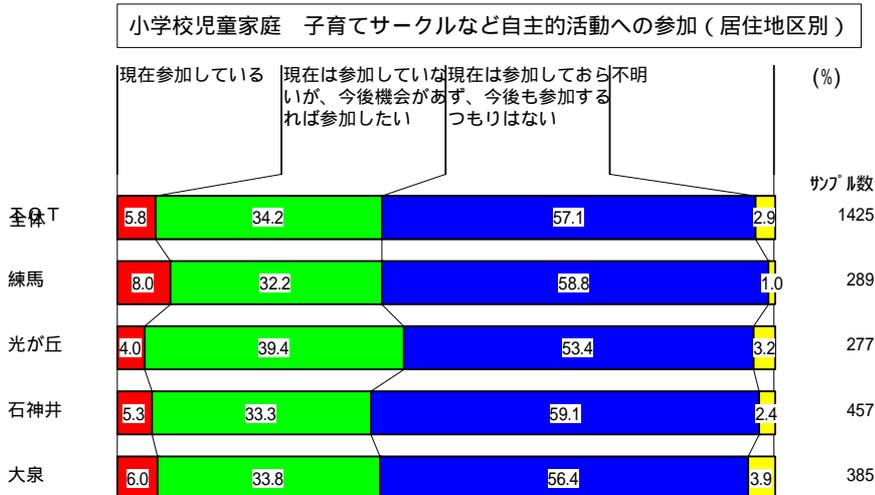
地域での子育て支援について

子育てサークルなど自主的な活動への参加意向については、就学前児童家庭では「光が丘地区」でやや高い。小学校児童家庭では、全体的に参加意向が低い。
 自主的な活動での行政への要望については、就学前児童家庭の 50.9%、小学生児童家庭の 45.3%が区からの情報提供。

子育てサークル などへの参加



(注)居住地区の不明サンプルは除く。



(注)居住地区の不明サンプルは除く。

自主的な活動での 行政への要望

[就学前児童] N = 532 複数回答

- 1位 区からの情報提供 50.9%
- 2位 活動場所の提供（場所貸しなど） 44.0%
- 3位 活動時間中の保育サービス 28.2%

[小学校] N = 570 複数回答

- 1位 区からの情報提供 45.3%
- 2位 活動場所の提供（場所貸しなど） 44.6%
- 3位 活動資金助成 27.7%

子どもの遊び場、外出時の困りごと等について

子どもの遊び場への意識の第1位は、就学前、小学校ともに「雨の日に遊べる場所がない」。就学前児童家庭での子どもと外出の際の困りごとは、「トイレがオムツ替えなど利用に配慮されていないこと」など、施設のバリアフリーに関する要望が多い。

子どもの遊び場 への意識

就学前児童家庭 子どもの遊び場への意識（居住地区別）

	件数	雨の日に遊べる場所がない	不衛生である	遊具などの種類が充実していない	広さが足りない	思い切り遊ぶために十分な	交通安全上よくない	遊び場やその周辺の道路が	緑などの自然が少ない	いつも閑散としていて寂しい感じがする	近くに遊び場がない	遊び場に子どもと同じ歳く	防犯上よくない	遊び場やその周辺の環境が	遊具などの設備が古くて危険である	遊び場に行っても、遊び仲間に入りにくい	その他	特に感じることはない	不明
全体	1023	48.5	20.7	20.5	19.0	15.3	13.7	11.7	10.1	8.7	8.3	7.2	6.7	4.4	17.4	1.9			
練馬	239	51.5	24.7	23.0	20.9	14.2	20.5	10.0	10.9	8.8	8.4	6.7	10.5	5.4	9.6	1.7			
光が丘	231	43.3	20.8	18.6	17.7	13.4	10.0	16.9	13.0	14.3	9.1	10.0	7.4	3.9	16.9	0.4			
石神井	237	54.9	20.3	19.0	24.1	17.7	14.3	9.3	9.3	5.1	7.2	4.6	6.8	3.8	16.5	3.0			
大泉	285	47.7	18.9	22.5	15.8	15.4	10.5	10.5	8.4	8.1	7.4	7.4	3.9	4.9	22.5	1.8			

（注）網掛けは平均（全体）と比べて5%以上高いもの。居住地区の不明サンプルは除く。

小学校児童家庭 子どもの遊び場への意識（居住地区別）

	件数	雨の日に遊べる場所がない	広さが足りない	思い切り遊ぶために十分な	防犯上よくない	遊び場やその周辺の環境が	交通安全上よくない	遊び場やその周辺の道路が	遊具などの種類が充実していない	近くに遊び場がない	いつも閑散としていて寂しい感じがする	緑などの自然が少ない	不衛生である	遊び場に子どもと同じ歳く	防犯上よくない	遊び場やその周辺の環境が	遊具などの設備が古くて危険である	遊び場に行っても、遊び仲間に入りにくい	その他	特に感じることはない	不明
全体	1425	51.2	38.1	26.7	20.0	18.3	16.4	11.8	10.2	9.8	8.4	4.1	2.9	4.9	6.4	2.9					
練馬	289	52.6	39.8	18.7	13.5	20.8	13.1	6.2	19.0	12.8	9.3	5.2	0.3	3.8	6.9	3.1					
光が丘	277	46.6	28.9	32.1	17.3	16.2	10.1	14.4	5.8	10.8	10.5	5.1	3.6	5.4	8.7	2.9					
石神井	457	55.1	39.2	29.1	21.7	19.0	14.2	13.6	6.3	8.8	8.5	3.5	4.4	3.9	6.3	2.4					
大泉	385	49.6	41.8	26.5	24.7	17.1	25.7	11.9	11.2	8.1	5.7	3.6	2.9	6.5	4.4	2.9					

（注）網掛けは平均（全体）と比べて5%以上高いもの。居住地区の不明サンプルは除く。

子どもと外出の際の困りごと

[就学前児童] N=1,023 複数回答

- 1位 トイレがオムツ替えなど利用に配慮されていないこと 30.9%
- 2位 建物などがベビーカーでの移動に配慮されていないこと 28.7%
- 3位 歩道も自転車が通るなど、安心して歩けないこと 27.9%

仕事と子育てとの両立について

仕事と子育てとの両立での困りごとについては、就学前児童家庭の 46.2%、小学生児童家庭の 53.3% が「自分が病気などの時に代わりがない」。

仕事と子育てとの両立での要望については、就学前児童家庭の 29.9%、小学生児童家庭の 45.2% が職場や上司の理解・協力体制。また短時間勤務やフレックスタイム制度への要望も強い。

仕事と子育ての 両立での困りごと

[就学前児童] N = 331 複数回答

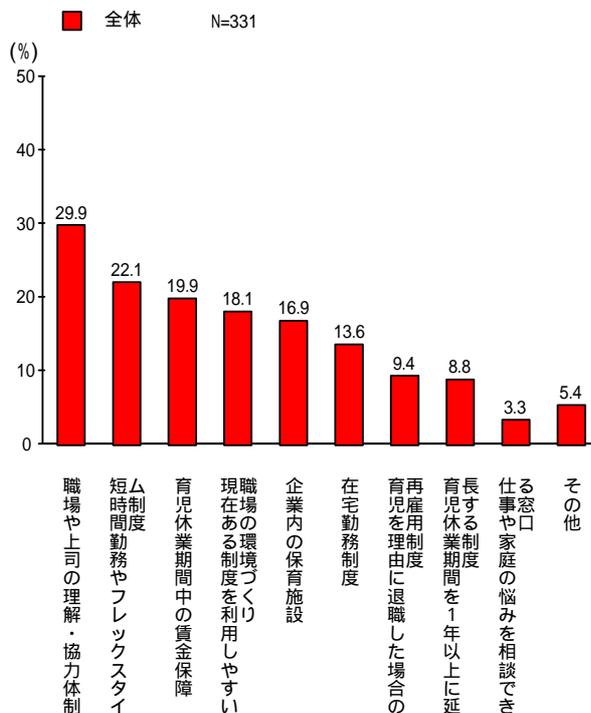
- 1位 自分が病気などの時に代わりがない 46.2%
- 2位 子どもと接する時間が少ない 32.3%
- 3位 急な残業が入ってしまう 27.2%

[小学校] N = 589 複数回答

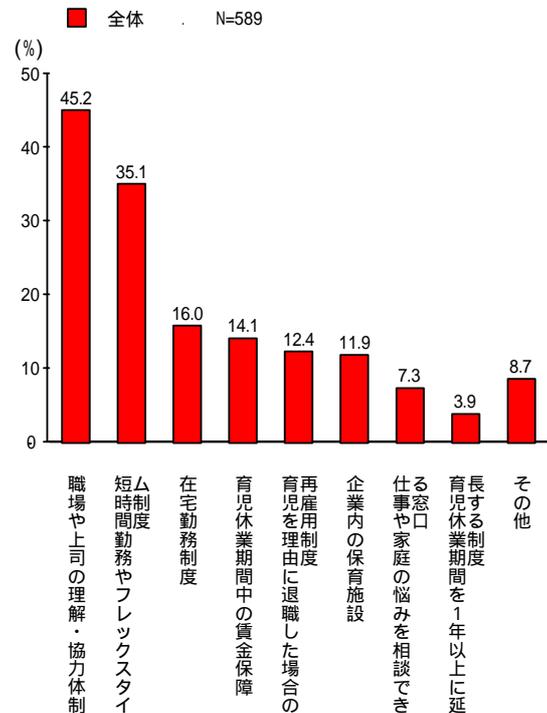
- 1位 自分が病気などの時に代わりがない 53.3%
- 2位 子どもと接する時間が少ない 45.8%
- 3位 急な残業が入ってしまう 24.4%

仕事と子育ての 両立のための要望

就学前児童家庭 仕事と子育ての両立のために望むこと



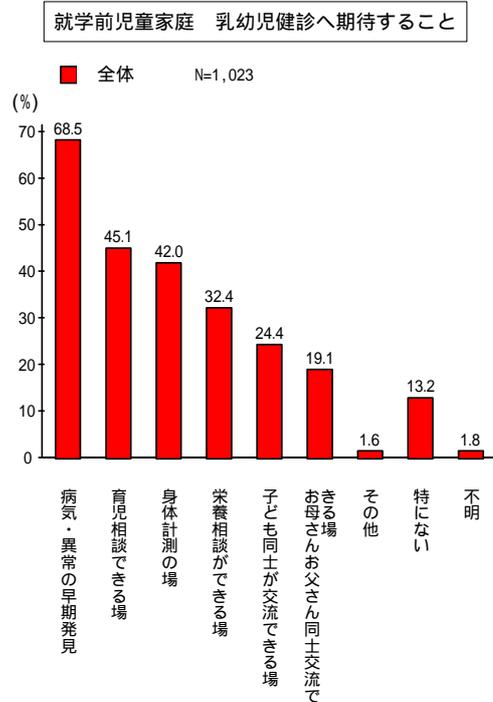
小学校児童家庭 仕事と子育ての両立のために望むこと



母子保健、地域医療等について

就学前児童家庭の乳幼児健診への満足度は高く、期待することとしては「病気・異常の早期発見」。就学前児童家庭、小学校児童家庭のいずれも、かかりつけ医については約8割、小児救急医療機関の認知については約9割が「あり」。就学前児童家庭、小学校児童家庭のいずれも、子どもの朝食摂取状況については約9割、子どもの間食については9割以上が「あり」。

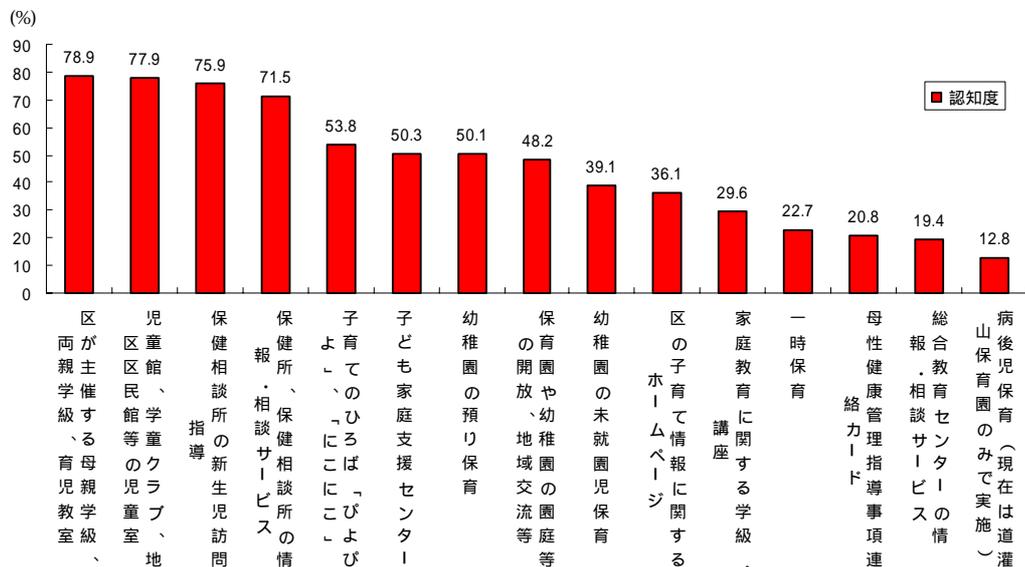
乳幼児健診へ期待すること



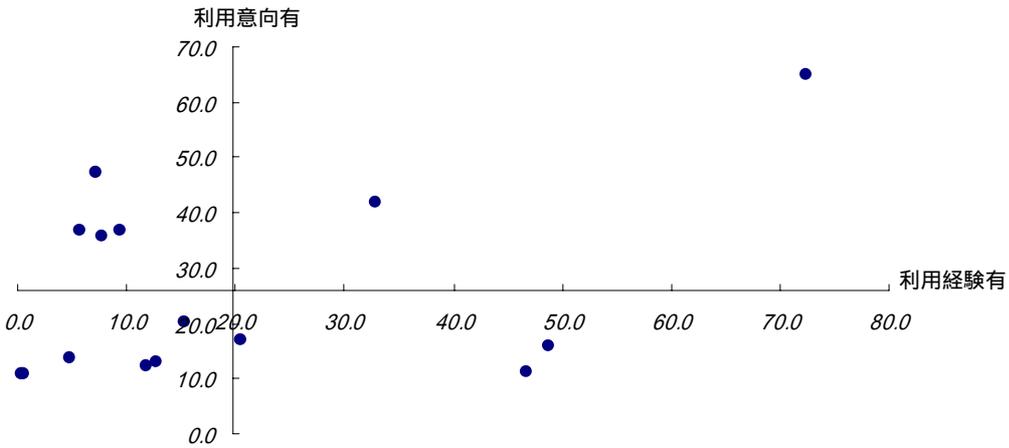
子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向について

最も認知度の高いサービスは、就学前児童家庭では「区が主催する母親学級、両親学級、育児教室」、小学校児童家庭では「児童館、学童クラブ、地区区民館等の児童室」。就学前児童家庭、小学校児童家庭のいずれも、利用経験と利用意向が高いサービスは「児童館、学童クラブ、地区区民館等の児童室」。

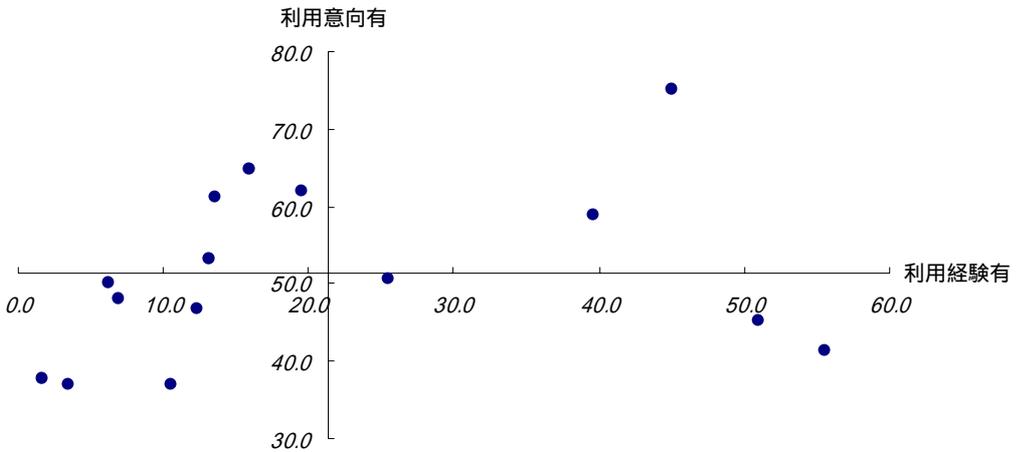
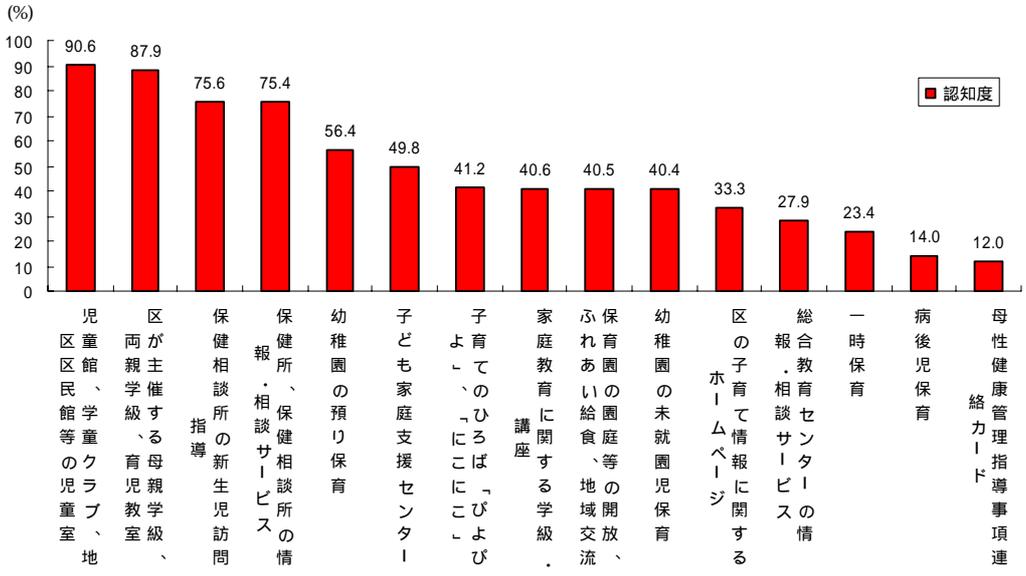
就学前児童家庭 子育て支援サービスの認知度と利用経験&利用意向マトリックス (%)



就学前児童家庭 子育て支援サービスの認知度と利用経験&利用意向マトリックス(%) 続



小学校児童家庭 子育て支援サービスの認知度と利用経験&利用意向マトリックス(%)



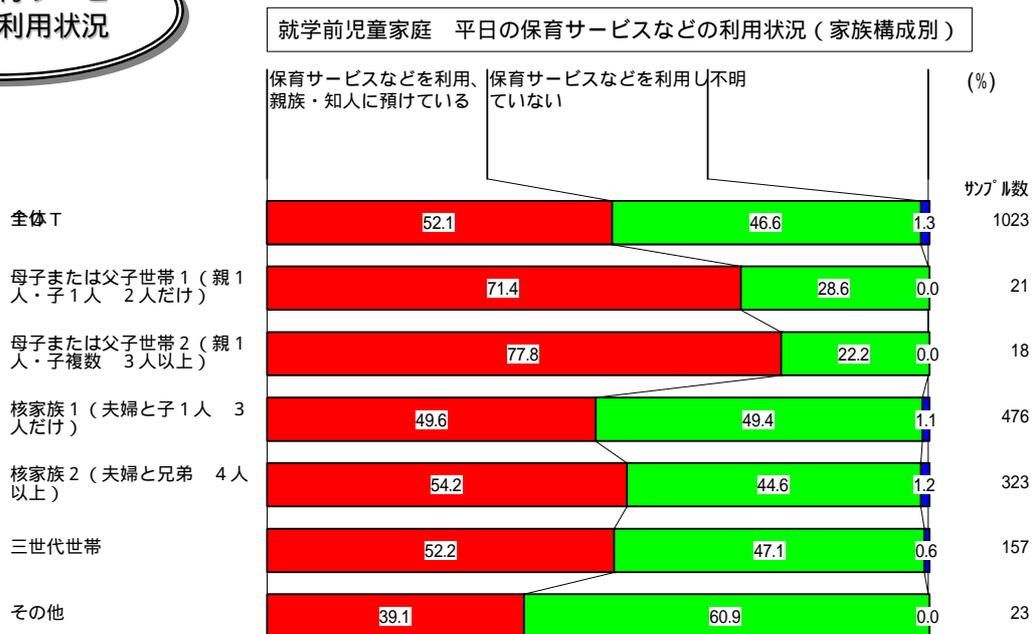
区が主催する母親学級、両親学級、育児教室 母性健康管理指導事項連絡カード 保健相談所の新生児訪問指導 保健所、保健相談所の情報・相談サービス 家庭教育に関する学級講座 総合教育センターの情報・相談サービス 幼稚園の未就園児保育 幼稚園の預り保育	保育園や幼稚園の園庭等の開放、地域交流等 子育てのひろば「びよびよ」、「にこにこ」 一時保育 病後児保育(現在は道灌山保育園のみで実施) 児童館、学童クラブ、地区区民館等の児童室 子ども家庭支援センター 区の子育て情報に関するホームページ
---	---

保育サービスなどの利用状況について

就学前児童家庭の平日の保育サービス(保育園、幼稚園、認可外保育施設、ベビーシッター、家政婦及び育児支えあい事業を含む)を利用したり、親族・知人に子どもを預けている保護者は 52.1%。母子または父子家庭では7割以上。

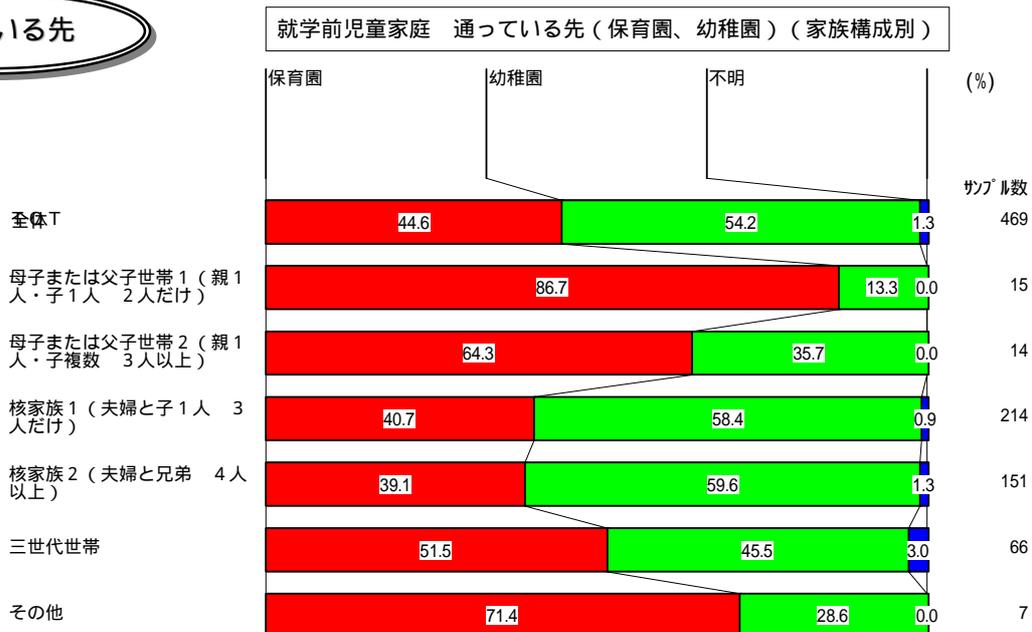
平日の保育サービスを利用したり、親族・知人に子どもを預けているケースのうち、保育園・幼稚園に通っているのは 88.0%。通園先は、「保育園」が 44.6%、「幼稚園」が 54.2%。

平日の保育サービスなどの利用状況



(注)家族構成の不明サンプルは除く。

通っている先

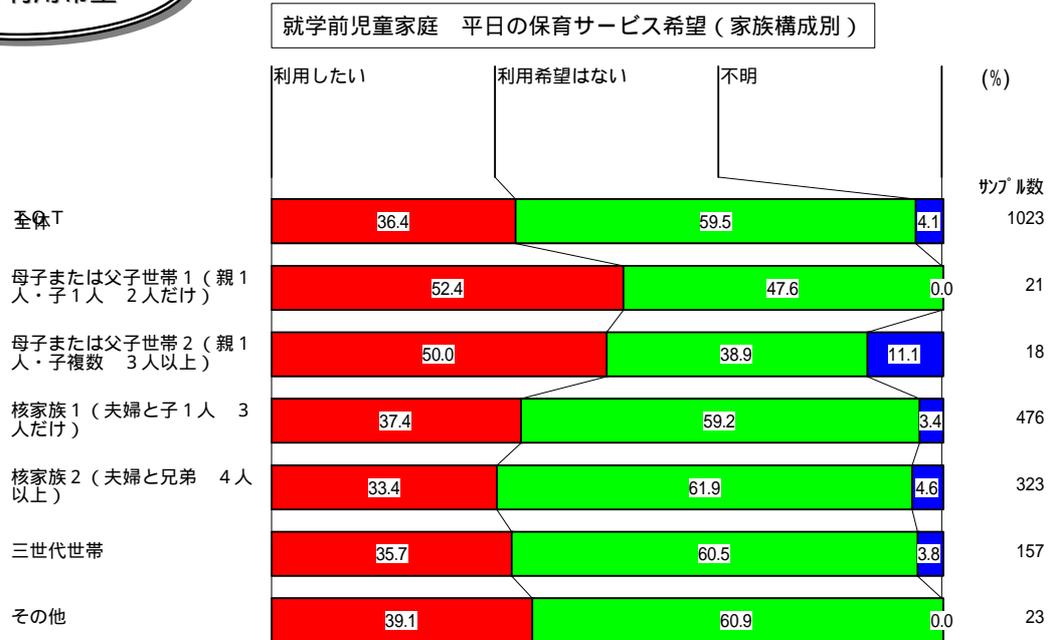


(注)家族構成の不明サンプルは除く。

保育サービスの利用意向について

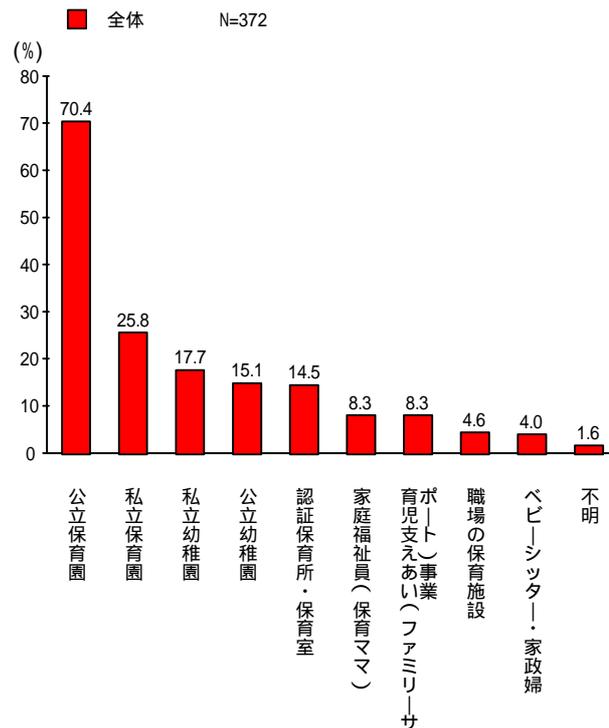
就学前児童家庭の平日の保育サービスの利用希望は36.4%。母子または父子家庭では5割以上。主な希望サービスは「公立保育園」が70.4%。預けたい理由は「現在就労している」が50.4%、「そのうち就労したいと考えている」が28.6%。

平日の保育サービスの利用希望

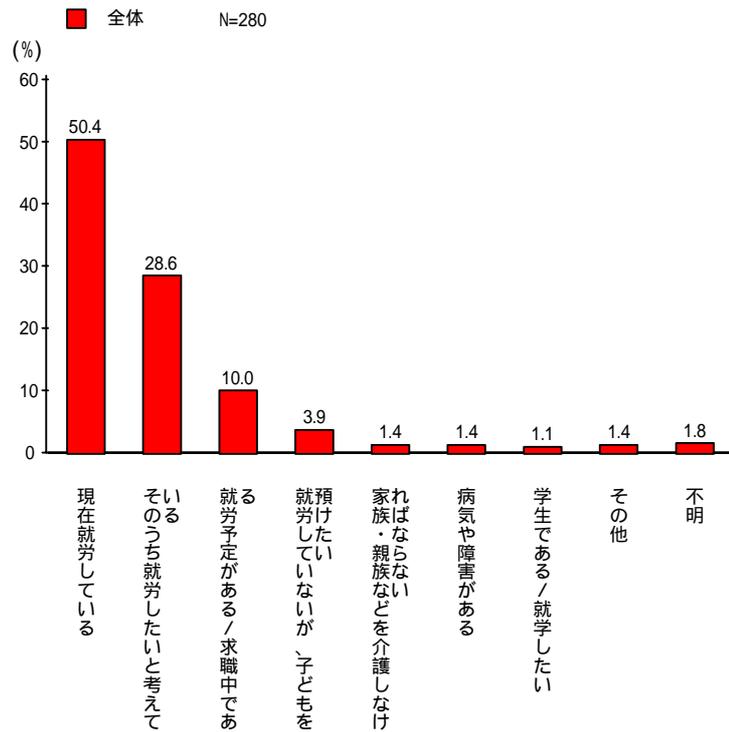


(注) 家族構成の不明サンプルは除く。

就学前児童家庭 主な希望サービス



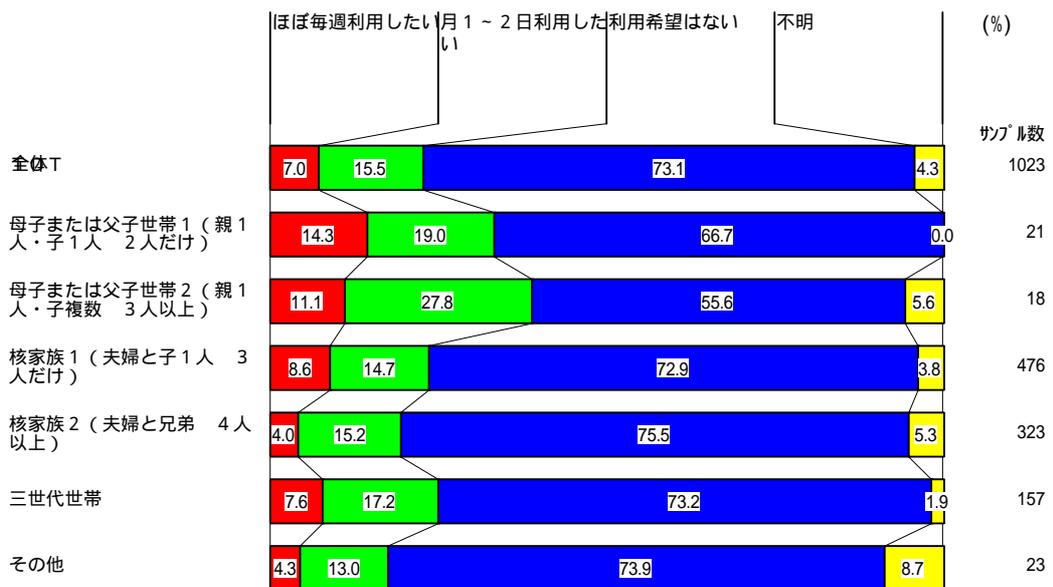
就学前児童家庭 預けたい理由



就学前児童家庭の土曜日の保育サービスの利用希望は 22.5%。母子または父子家庭では 3 割以上。

土曜日の保育サービスの利用希望

就学前児童家庭 土曜日の保育サービス希望 (家族構成別)

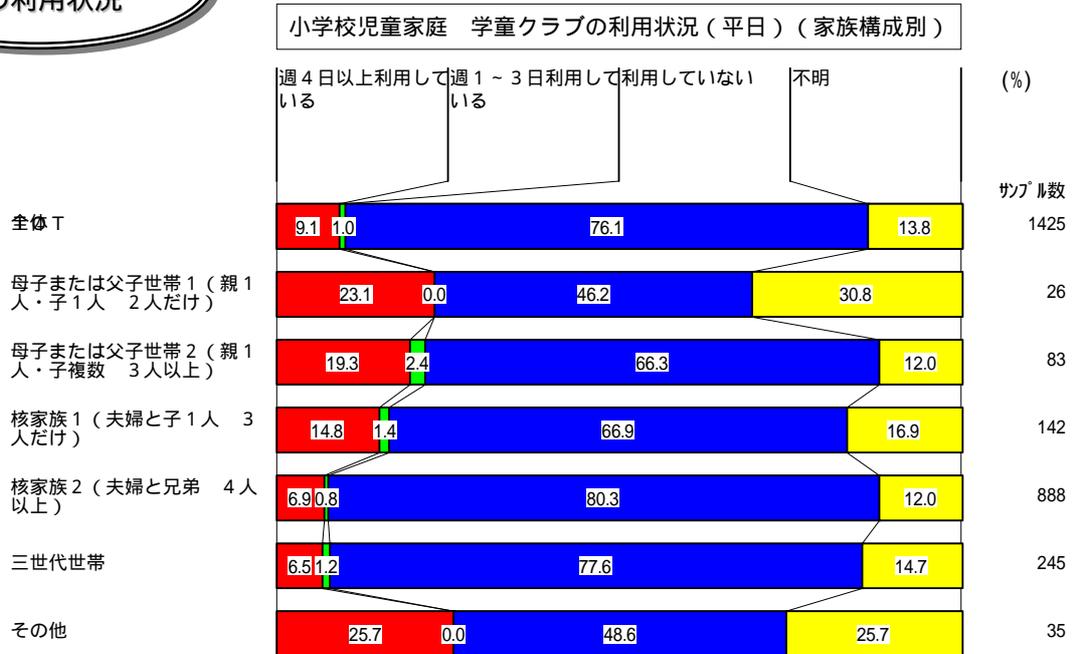


(注) 家族構成の不明サンプルは除く。

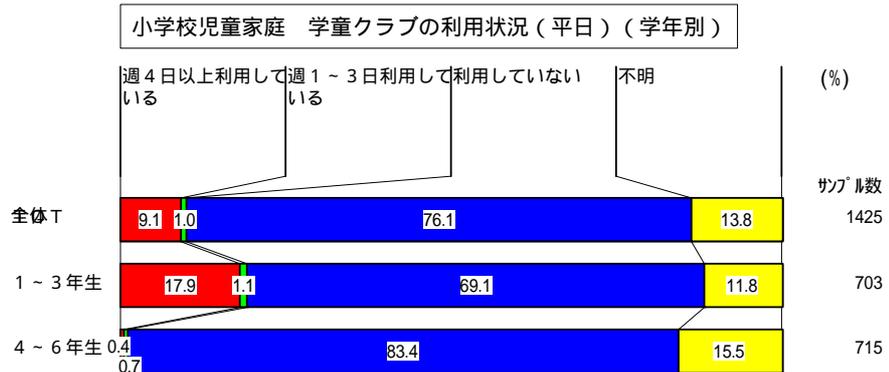
学童クラブの利用状況、利用意向について

小学校児童家庭で、平日学童クラブを利用している保護者は 10.1%。母子または父子家庭では約 2 割。1～3 年生では 19.0%。
学童クラブ利用者の要望は、「利用できる学年を延長して欲しい」が 47.6%。

平日の学童クラブの利用状況



(注) 家族構成の不明サンプルは除く。

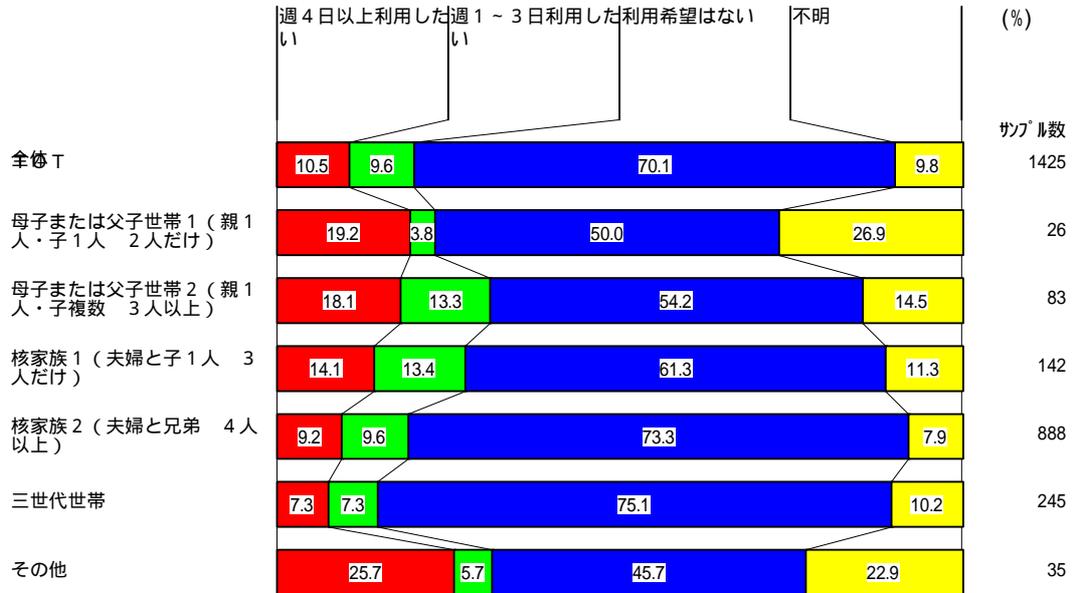


(注) 学年の不明サンプルは除く。

小学校児童家庭の平日の学童クラブの利用希望は 20.1%。1～3年生では 31.1%。
土曜日の学童クラブの利用希望は 10.9%。

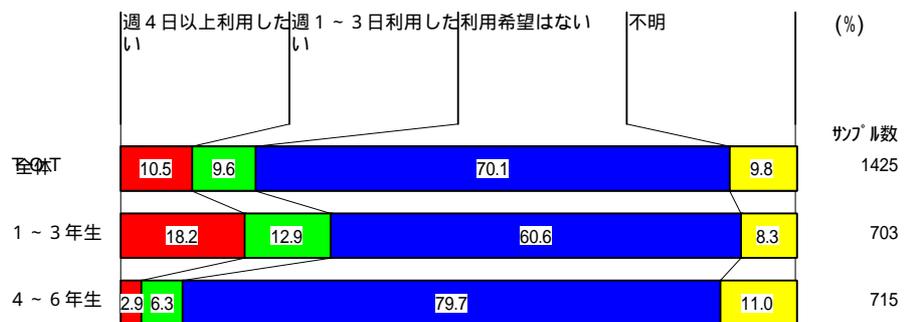
平日の学童クラブの利用希望

学童クラブの利用希望（平日）（家族構成別）



(注) 家族構成の不明サンプルは除く。

小学校児童家庭 学童クラブの利用希望（平日）（学年別）



(注) 学年の不明サンプルは除く。

子どもが病気になったときの対応、一時預かりについて

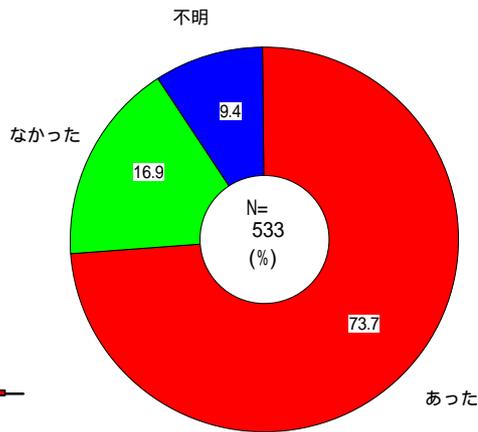
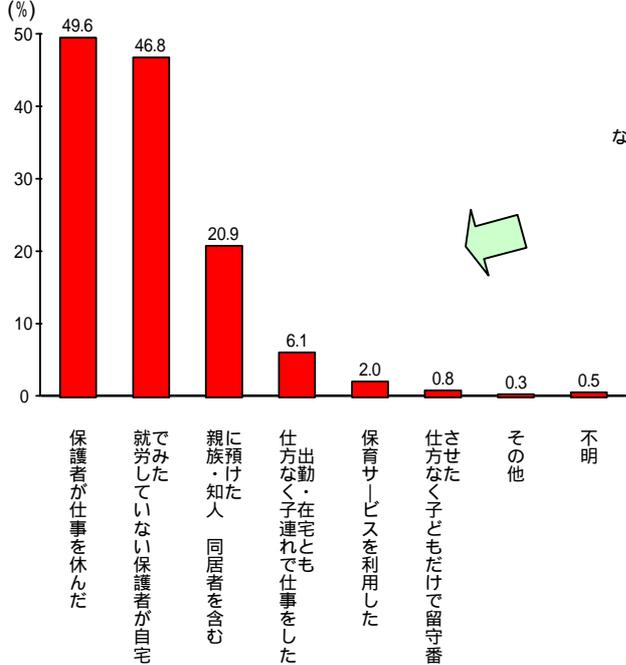
73.7%の保護者が、この1年間の間に子どもが病気で保育園・幼稚園・認可外保育施設を休まなければならなかったことがあり、その際には「保護者が仕事を休んだ」が最も高い。

45.5%の保護者が、この1年間の間に緊急の用事で、日中、子どもの面倒をみられなかったことがあり、その際には「親族・知人(同居者を含む)に預けた」が最も高い。

就学前児童家庭 1年間の間に病気で保育所等を休まなければならなかったこと
TOTAL
就学前児童家庭 1年間の間に病気で保育所等を休まなければならなかったこと

対処方法

全体 N=393



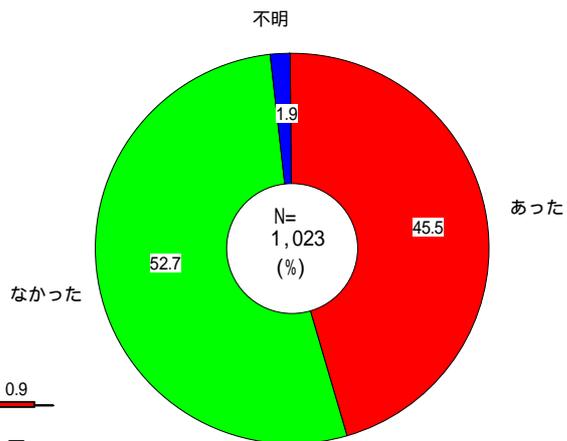
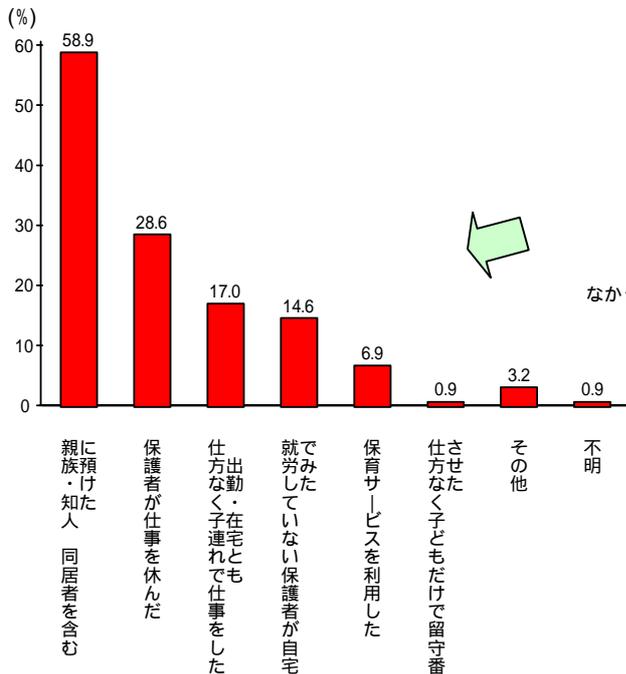
病気時対応

就学前児童家庭 緊急の用事で、日中子どもの面倒を見るのが困難になったこと

TOTAL
就学前児童家庭 緊急の用事で、日中子どもの面倒を見るのが困難になったこと

対処方法

全体 N=465

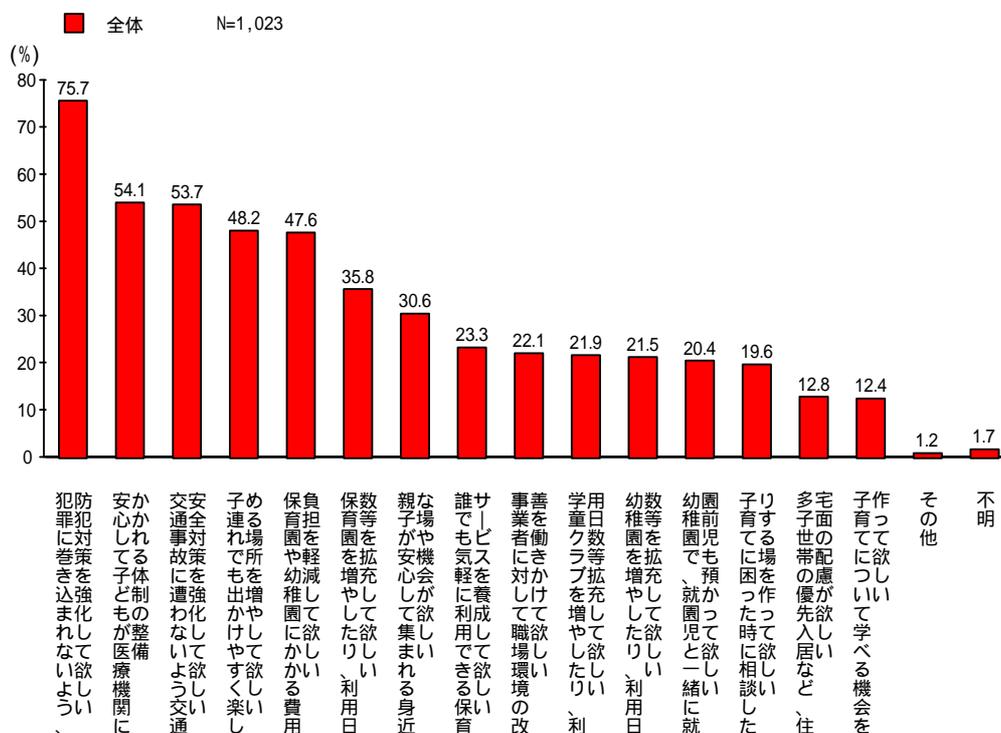


一時預かり

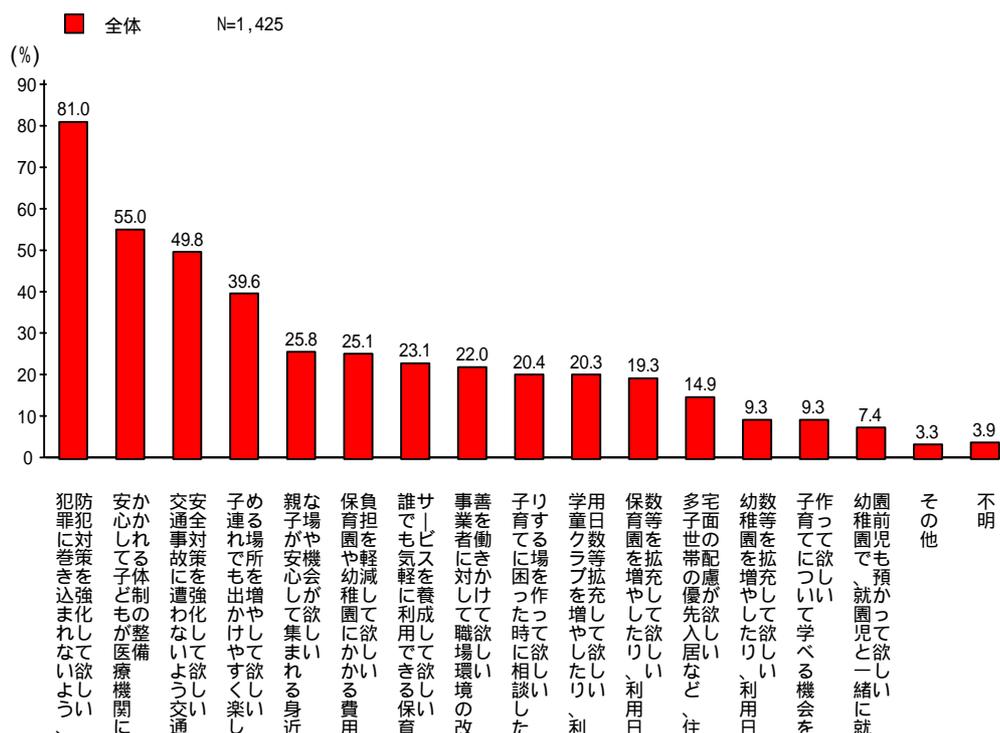
子育て施策の重点について

子育て支援要望については、就学前児童家庭、小学校児童家庭ともに「防犯対策」、「安心できる医療機関」、「交通安全」といった『安全・安心』への要望が強い。

就学前児童家庭 子育て支援要望



小学校児童家庭 子育て支援要望



- 2 中学生、高校生の調査結果

1. 調査仕様

	中学生	高校生
調査地域	区内	区内
調査対象	区内の中学校に通学する2年生(10クラス)	区内に所在する高校に通学する2年生(10クラス)
標本数	400件	400件
抽出方法	地域別に生徒数などを勘案し11校抽出	地域別に生徒数などを勘案し5校抽出
調査方法	学校を経由して配付、回収	学校を経由して配付、回収
調査期間	平成16年3月1日～12日	平成16年3月1日～12日
回収数 ・回収率	278件 有効回答率 = 69.5%	327件 有効回答率 = 81.8%

2. 調査結果の概要

家族の状況

家族数の平均は4.5人、85.0%には兄弟姉妹。
父親の86.1%、母親の75.9%が就労。10.6%は「父親はいない」。

日常の活動・生活・居場所について

中学生、高校生ともに70%以上がしている家事は「自分の部屋の掃除」。全体的に女子生徒の方が家事経験が多い。

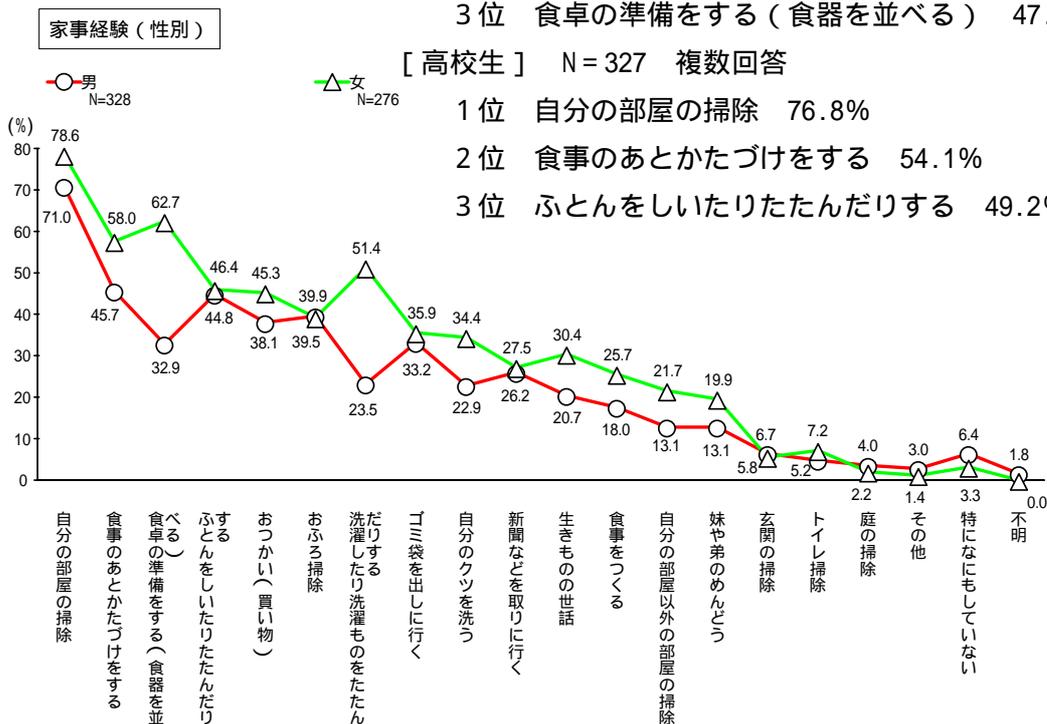
家事経験

[中学生] N=278 複数回答

- 1位 自分の部屋の掃除 71.9%
- 2位 食事のあとかたづけをする 48.2%
- 3位 食卓の準備をする(食器を並べる) 47.8%

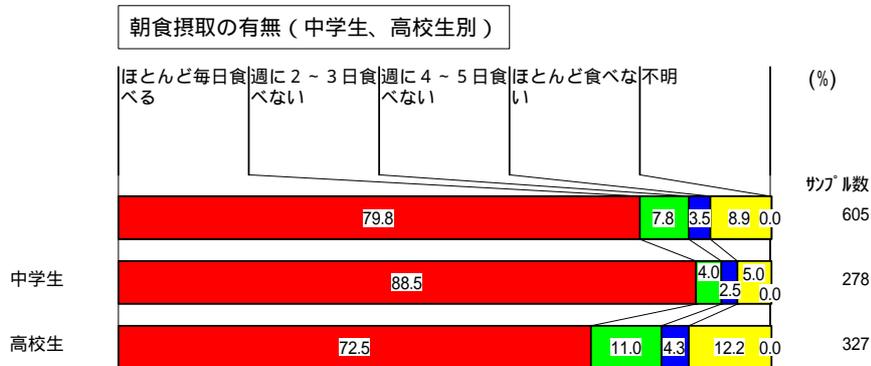
[高校生] N=327 複数回答

- 1位 自分の部屋の掃除 76.8%
- 2位 食事のあとかたづけをする 54.1%
- 3位 ふとんをしいたりたたんだりする 49.2%

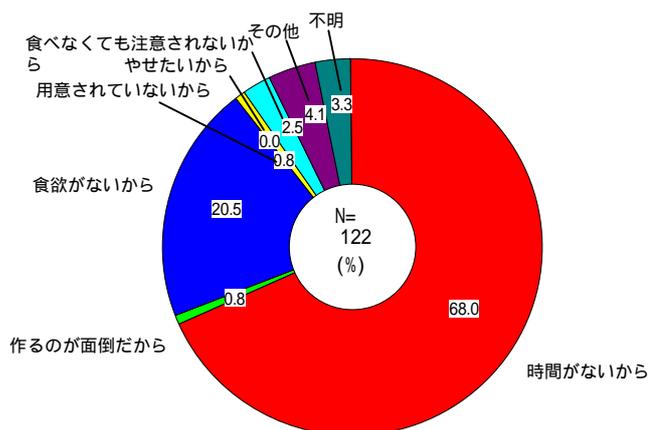


朝食は、中学生の約 90%、高校生の約 70%が「ほとんど毎日食べる」。
 朝食を摂取しない理由については、「時間がないから」が約 70%、食欲がないからが約 20%。

朝食の摂取



朝食を摂取しない理由



間食は 85.6%がとっており、女子生徒については 93.1%。
 回数の平均は 1.7 回で、「スナック類」、「菓子パン・ケーキ類」など様々。

放課後の居場所については、中学生、高校生ともに 80%以上が「自分の家」。

放課後の居場所

- [中学生] N = 278 複数回答
- 1位 自分の家 86.7%
 - 2位 部活動 60.4%
 - 3位 学習塾や習いごと 49.6%
- [高校生] N = 327 複数回答
- 1位 自分の家 80.7%
 - 2位 部活動 50.8%
 - 3位 アルバイト・仕事先 33.0%

休日の居場所については、中学生、高校生ともに80%以上が「自分の家」、
女子生徒の3番目(高校生・女子の2番目)に多いところは「区外の店」。

休日の居場所

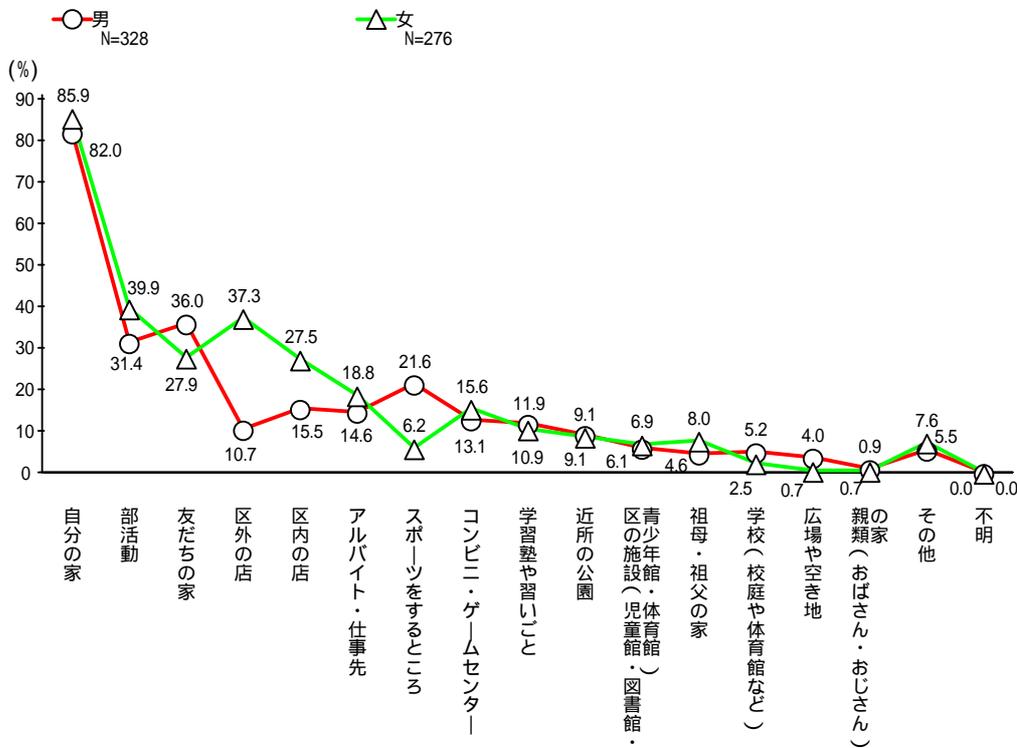
[中学生] N=278 複数回答

- 1位 自分の家 84.2%
- 2位 部活動 38.8%
- 3位 友だちの家 38.5%

[高校生] N=327 複数回答

- 1位 自分の家 83.5%
- 2位 部活動 32.1%
- 3位 アルバイト・仕事先 30.6%

休日の居場所(性別)



ほっとできる時については、中学生、高校生ともに「寝ているとき」など一人の時。
女子生徒は男子生徒と比べて、「友だち」、「家族」と一緒のときもほっとできる。

ほっとできる時

[中学生] N=278 複数回答

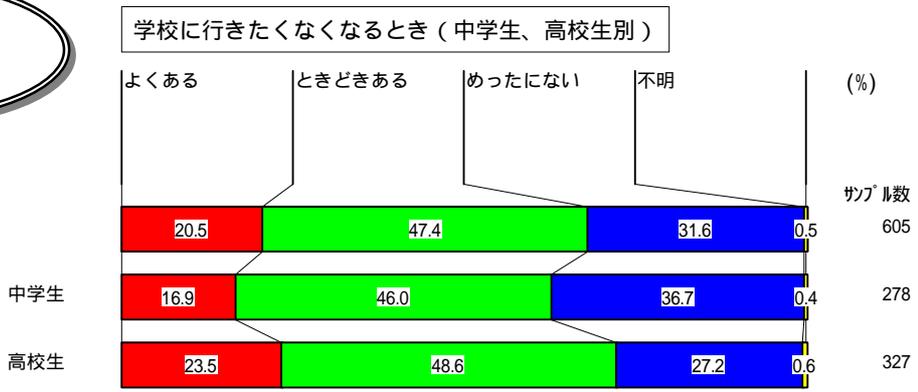
- 1位 寝ているとき 70.9%
- 2位 自分の部屋にいるとき 66.9%
- 3位 お風呂に入っているとき 59.7%

[高校生] N=327 複数回答

- 1位 自分の部屋にいるとき 66.7%
- 2位 お風呂に入っているとき 63.6%
- 3位 寝ているとき 61.2%

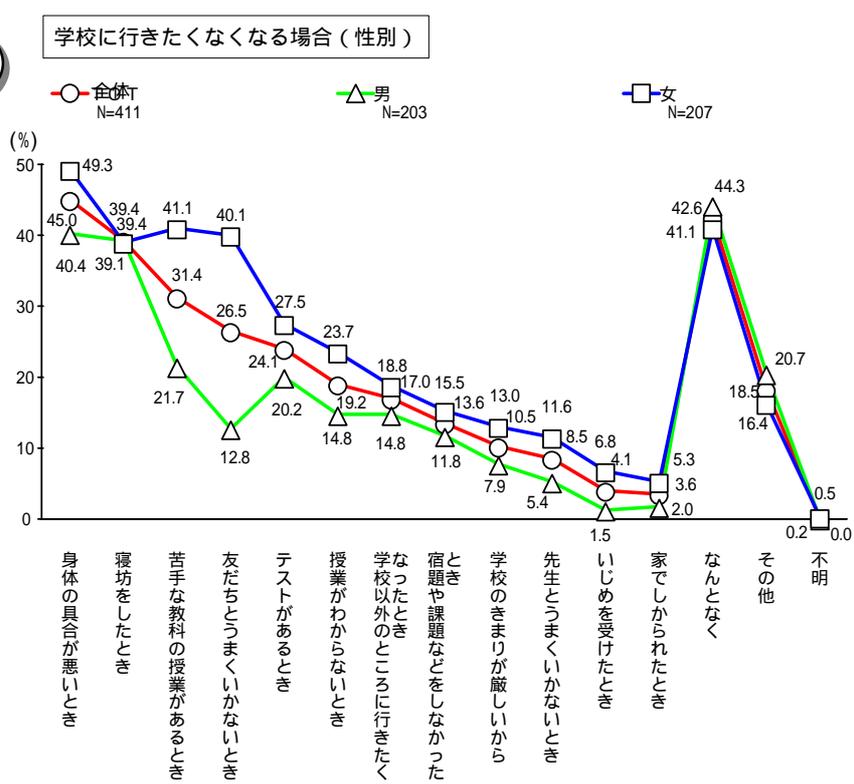
学校に行きたくなくなる時がある生徒の割合は 67.9% で、高校生の割合がやや大きい。

学校に行きたくなくなる時



学校に行きたくなくなる場合は「身体の具合が悪いとき」、「なんとなく」が 40% 以上。「苦手教科の授業」や「友だち関係」なども重要な要因となる女生徒。高校生については「寝坊をしたとき」(47.9%) が最も多い。

学校に行きたくなくなる場合



学校に行きたくなくなる時の対処法については、中学生、高校生ともに 50% 以上が「相談しなかった」。女生徒は男子生徒に比べて「友だち・先輩に相談」する傾向。

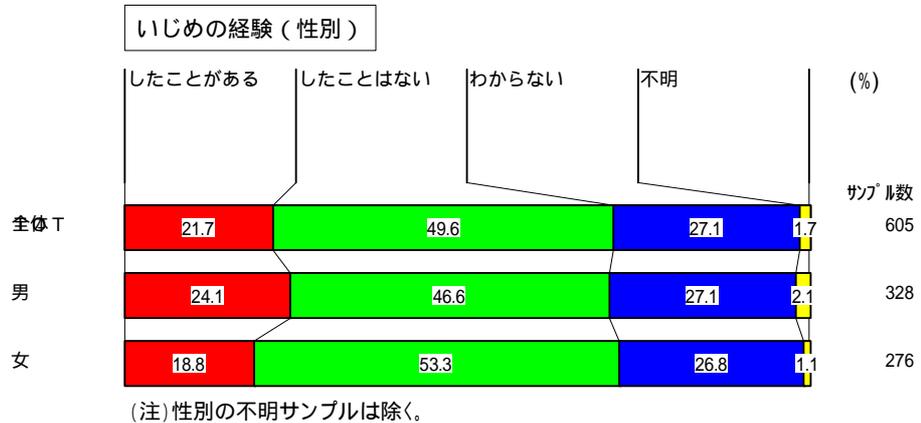
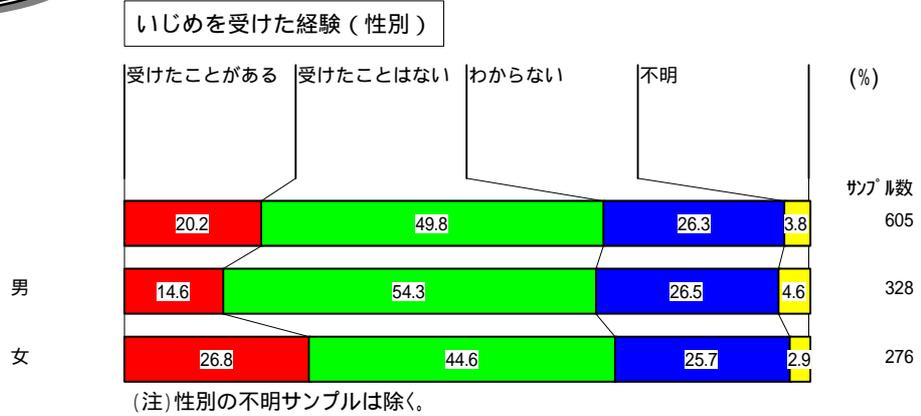
対処法

N = 605 複数回答

- 1位 相談しなかった、相談しなかった 54.5%
- 2位 友だち・先輩に相談した 17.8%
- 3位 母親に相談した 16.1%

いじめを受けた経験は 20.2%、女子生徒の割合が大きい。
 いじめをした経験は 21.7%、男子生徒の割合がやや大きい。

いじめ



いじめを受けたときの対処法は、「相手のいじめを無視した(する)」が 41.3%。
 女子生徒は「友だちに相談」、男子生徒は「仕返し」する傾向。

いじめを受けた
 ときの対処法

N = 605 複数回答

- 1位 相手のいじめを無視した(する) 41.3%
- 2位 相手に仕返しをした(する) 24.5%
- 3位 友だちに相談した(する) 23.3%

いじめをした気分については、中学生、高校生ともに「ちょっと悪かったと思った」。
 中学生では「見つからなければいいと思った」が 27.4%。

いじめをした
 気分

N = 131 複数回答

- 1位 ちょっと悪かったと思った 44.3%
- 2位 後悔して、もうしないようにしようと思った 30.5%
- 3位 見つからなければいいと思った 21.4%

就労・結婚・育児に関する意識について

大人になる上で必要なことについての認識が高いことは、中学生、高校生ともに「自分の行動に責任を持つ」。

大人になる上で必要なこと

- [中学生]「とても必要」 N = 278
- 1位 自分の行動に責任を持つ 84.2%
 - 2位 人に迷惑をかけない 80.6%
 - 3位 人への思いやりの心をもつ 78.1%

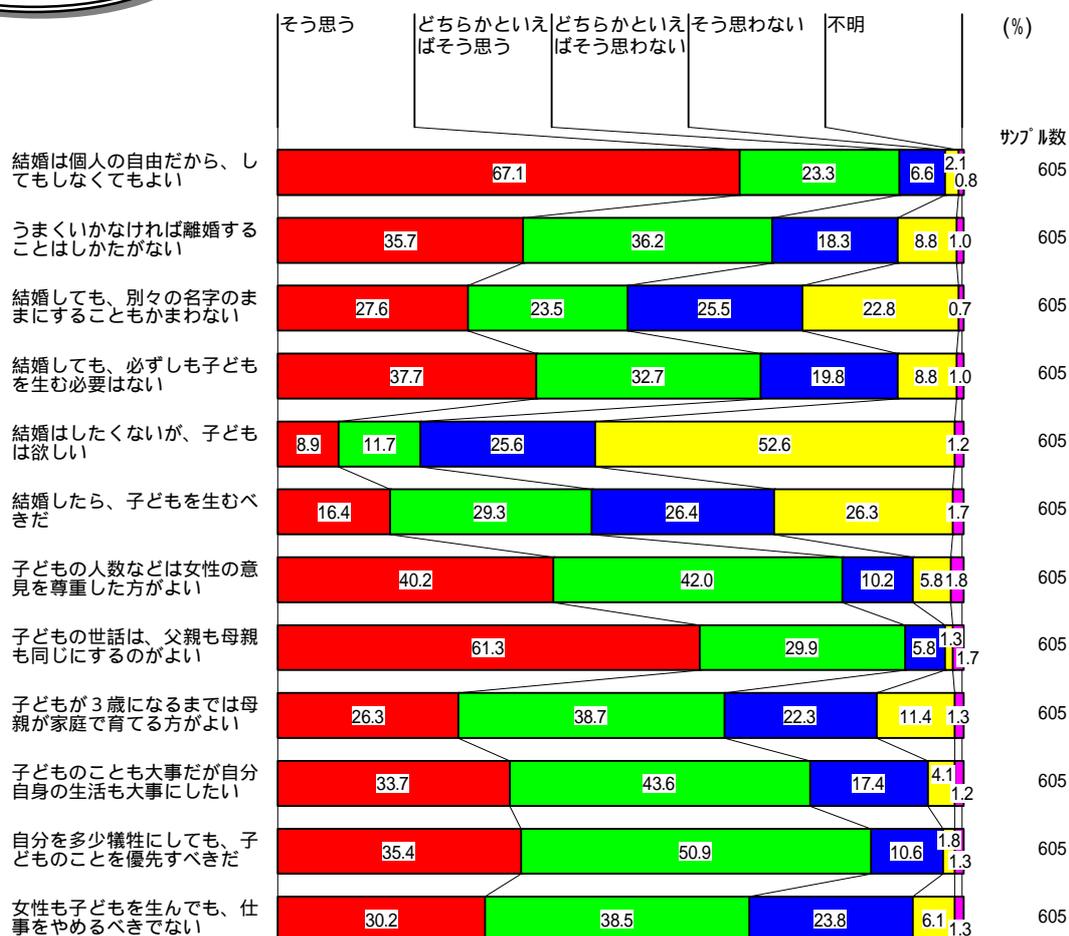
- [高校生]「とても必要」 N = 327
- 1位 自分の行動に責任を持つ 90.2%
 - 2位 職業について経済的に自立する 86.5%
 - 3位 人に迷惑をかけない 77.1%

将来つきたい仕事は性別に関係なく中学生、高校生ともに「給料に関係なく自分の好みの仕事」。

結婚や子ども等についての考え方については、「結婚は個人の自由」、「子育ての男女協働」についての認識が強い。

結婚、子ども等の考え方

結婚や子ども等についての考え方



心配、悩みについて

心配や悩みに思うことは、中学生が「勉強のこと」、高校生は「将来や進路のこと」、女子生徒は「自分の性格やクセのこと」、「顔や体型のこと」についての心配や悩みも多い。

心配や悩みに 思うこと

[中学生] N=278 複数回答

- 1位 勉強のこと 68.3%
- 2位 将来や進路のこと 54.0%
- 3位 自分の性格やクセのこと 47.1%

[高校生] N=327 複数回答

- 1位 将来や進路のこと 79.5%
- 2位 勉強のこと 57.2%
- 3位 自分の性格やクセのこと 53.5%

心配や悩みの相談相手は、中学生、高校生ともに「同年齢の友だち」、「母親」。全体的に男子生徒と比べて女子生徒は「同年齢の友だち」等に相談する傾向。

心配や悩みの 相談相手

[中学生] N=278 複数回答

- 1位 同年齢の友だち 59.4%
- 2位 母親 35.3%
- 3位 年上の友だち・先輩 13.3%

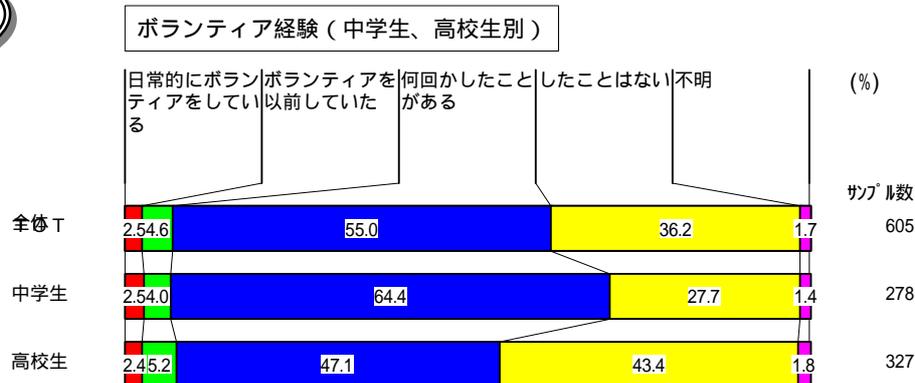
[高校生] N=327 複数回答

- 1位 同年齢の友だち 63.0%
- 2位 母親 38.8%
- 3位 兄弟姉妹 21.1%

地域との交流について

ボランティア経験は全体的に少なく、高校生の43.4%は「したことがない」。

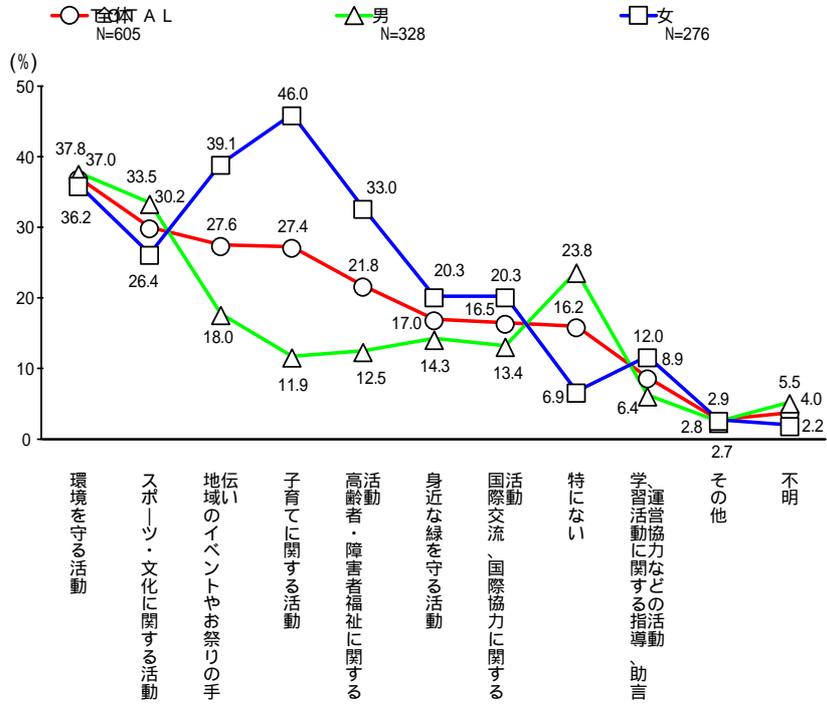
ボランティア 経験



参加したいボランティア活動は「環境を守る活動」、「スポーツ・文化に関する活動」。
女子生徒は「子育て」、「地域のイベントやお祭りの手伝い」、「高齢者・障害者福祉」なども多い。

参加したい
ボランティア

参加したいボランティア活動（性別）



子どもの権利について

子どもと接するとき大人に心がけて欲しいことは、「自分で考えて決めさせてほしい」などの自己裁量。子どもがいやな思いをしないために必要なことについては、男女問わず中学生、高校生ともに「人と違う自分らしさが認められること」。

大人に心がけて欲しいこと

[中学生] N = 278 複数回答

- 1位 自分のことは自分で考えて決めさせてほしい 41.0%
- 2位 友だちや兄弟姉妹と比べないでほしい 38.5%
- 3位 きまりや約束ごとを一方的に押し付けないでほしい 34.2%

[高校生] N = 327 複数回答

- 1位 きまりや約束ごとを一方的に押し付けないでほしい 44.3%
- 2位 自分のことは自分で考えて決めさせてほしい 42.2%
- 3位 話をもっと真剣に聞いてほしい 38.8%

- 3 独身及び子どものいない世帯、子育て中及び子育て終了世帯の調査結果

1. 調査仕様

	独身及び子どものいない世帯	子育て中及び子育て終了世帯
調査地域	区内	区内
調査対象	区内に居住する独身及び子どものいない世帯	区内に居住する子育て中世帯（13歳から18歳の末子のいる世帯）及び子育て終了世帯（50歳から65歳の夫婦のみの世帯）
標本数	500件（各250件）	500件（各250件）
抽出方法	住民基本台帳から調査対象の条件をかけて抽出	住民基本台帳から調査対象の条件をかけて抽出
調査方法	郵送配付、郵送回収	郵送配付、郵送回収
調査期間	平成16年3月1日～12日	平成16年3月1日～12日
回収数 ・回収率	115件 有効回答率 = 23.0%	214件 有効回答率 = 42.8%

2. 調査結果の概要

家族の状況

家族数の平均は独身及び子どものいない世帯が1.9人、子育て中及び子育て終了世帯が3.2人。経済的余裕については、全体的に子育て中及び子育て終了世帯では「余裕がある」、独身及び子どものいない世帯では「余裕がない」の割合が大きい。

将来の不安、結婚について

「仕事」、「生活費」など現在の生活に関連したことへの不安が強い独身及び子どものいない世帯と、「健康」、「老後」など将来の生活に関連したことへの不安が強い子育て中及び子育て終了世帯。

将来への不安

[独身及び子どものいない世帯] N = 115 複数回答

- 1位 仕事のこと 65.2%
- 2位 生活費のこと 60.0%
- 3位 自分の健康 54.8%

[子育て中及び子育て終了世帯] N = 214 複数回答

- 1位 自分の健康 70.1%
- 2位 老後のこと 61.2%
- 3位 生活費のこと 45.3%

「個人の自由」、「男女協働」意識の強い独身及び子どものいない世帯と、「女性の意見の尊重」、「母親による育児」などの意識が強い子育て中及び子育て終了世帯。

設問の各項目に対して「そう思う」×100、「どちらかといえばそう思う」×67、「どちらかといえばそう思わない」×33、「そう思わない」×0のようにウェイト付け（得点化）を行った。

結婚や子育ての考え

[独身及び子どものいない世帯] N = 115 複数回答

- 1位 エイズなどに対する知識 97.7ポイント
- 2位 結婚は個人の自由 88.5ポイント
- 3位 子どもの世話の男女協働 他 81.8ポイント

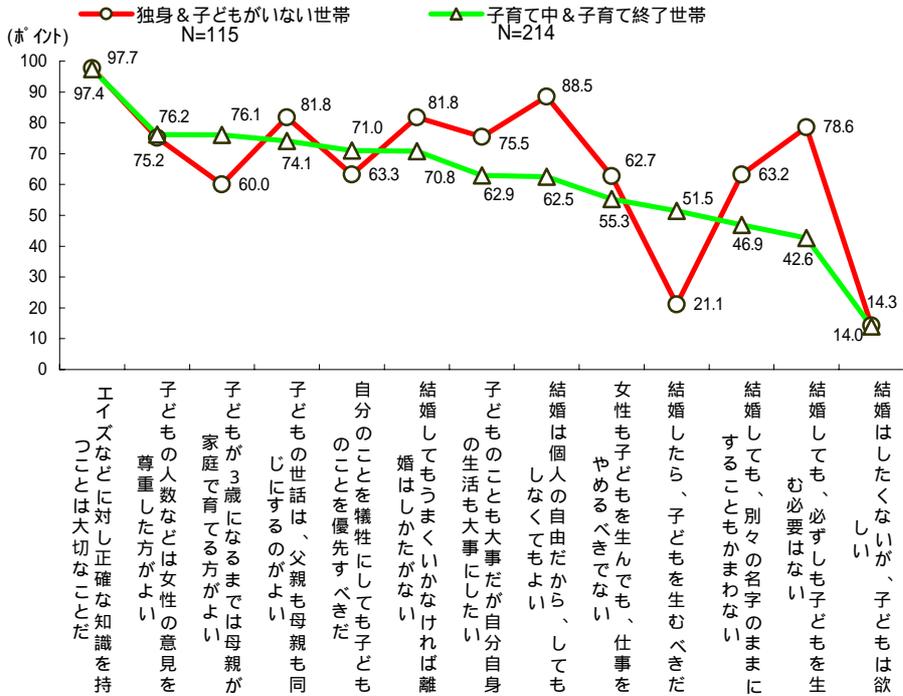
[子育て中及び子育て終了世帯] N = 214 複数回答

1位 エイズなどに対する知識 97.4ポイント

2位 子どもの人数などでの女性の意見尊重 76.2ポイント

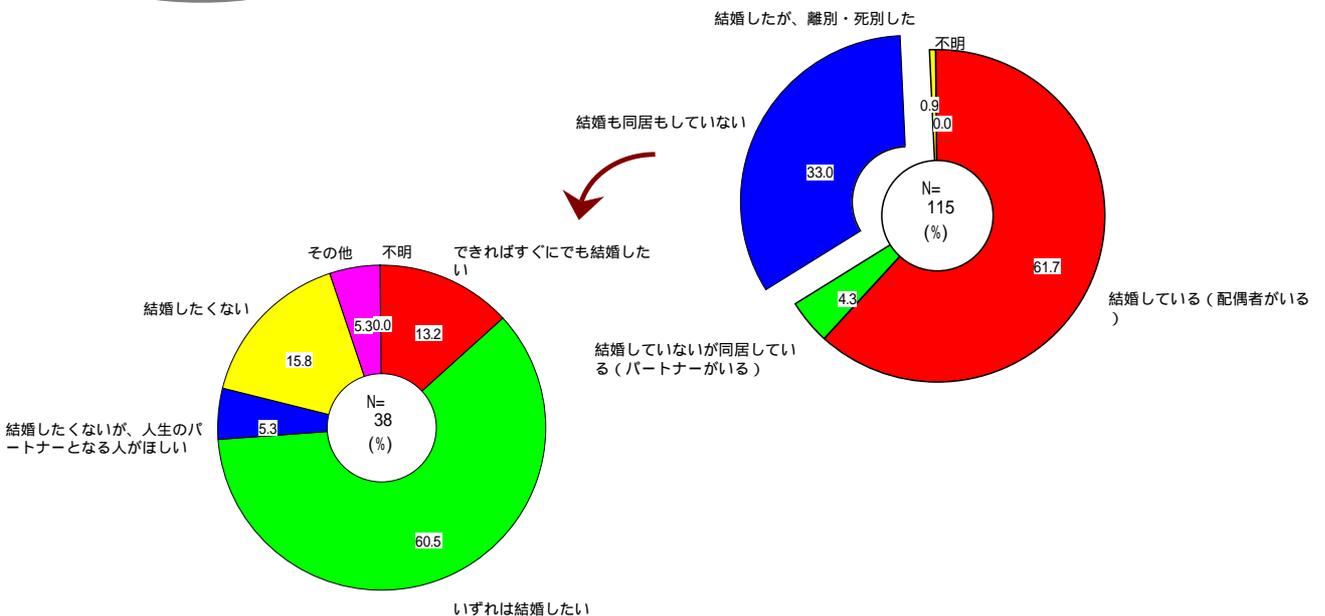
3位 3歳までは母親による家庭育児 76.1ポイント

結婚や子育てに関する考え方

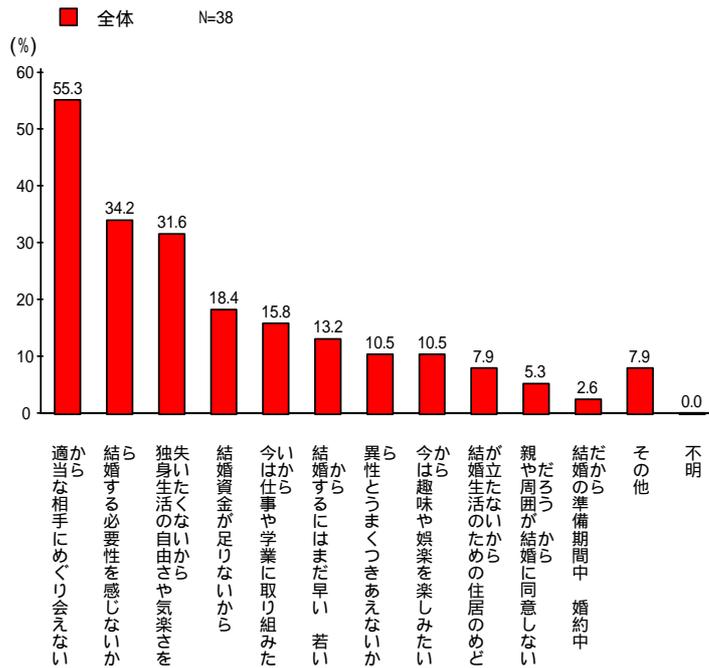


独身及び子どものいない世帯で「結婚も同居もしていない」は33.0%。
『結婚も同居もしていない』理由は「適当な相手にめぐり会えないから」。多くは結婚の意向は高い。

結婚の有無と
その考え



結婚も同居もしていない理由

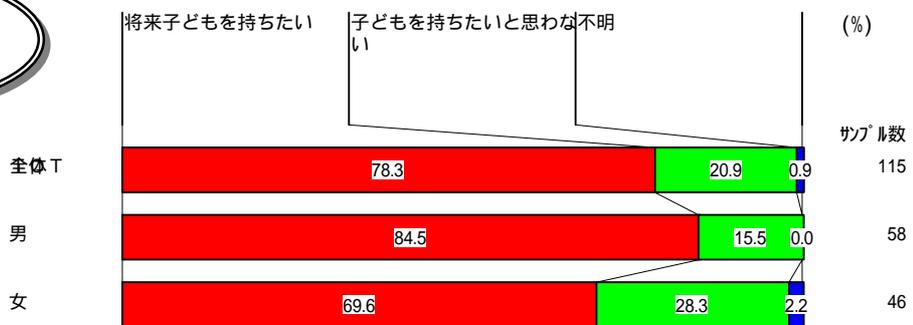


子育てについて

独身及び子どものいない世帯で「子どもを持ちたい」は 78.3%。特に男性の割合が大きい。

子どもを持ちたいか

子どもを持ちたいか (性別)



(注) 性別の不明サンプルは除く。

独身及び子どものいない世帯で『子どもを持ちたい理由』は「家族の結びつきが強くなるから」が 62.2%。『子どもを持ちたくない理由』は「子育ての経済的負担に耐えられないと思うから」が 45.8%。

子どもを持ちたい、持ちたくない理由

[子どもを持ちたい理由] N=90 複数回答

- 1位 家族の結びつきが強くなるから 62.2%
- 2位 子どもを通じて交流が広がるから 47.8%
- 3位 子どもを育てることは楽しいと思うから 41.1%

[子どもを持ちたくない理由] N=24 複数回答

- 1位 子育ての経済的負担に耐えられないと思う 45.8%
- 2位 自分の生活をエンジョイしたいから 33.3%
- 3位 今の世の中は子どもにふさわしくない 他 29.2%

子育て中及び子育て終了世帯で『子育てを通じて特に負担に感じていること、悩んでいること』は「子育てで出費がかさむ」が42.5%。女性の負担意識や悩みが男性と比べて大きい。

子育ての負担
や悩み

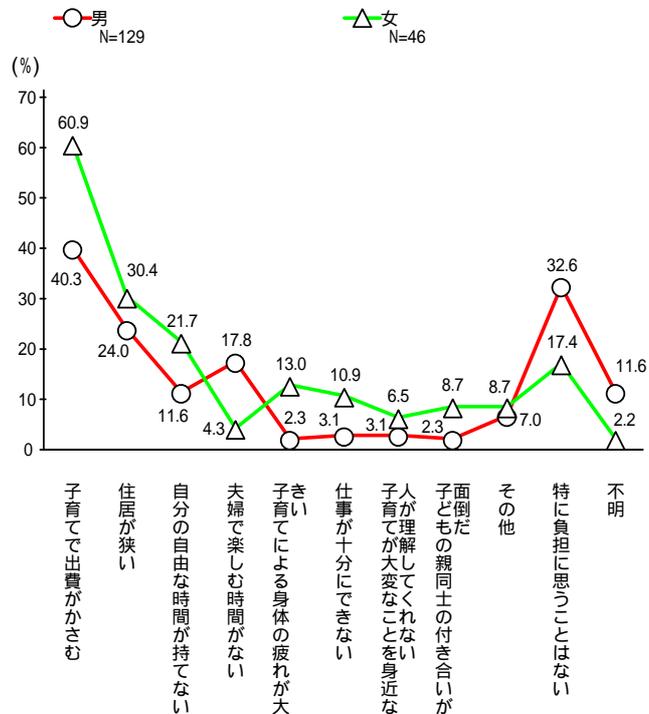
[男性] N=129 複数回答

- 1位 子育てで出費がかさむ 40.3%
- 2位 特に負担に思うことはない 32.6%
- 3位 住居が狭い 24.0%

[女性] N=46 複数回答

- 1位 子育てで出費がかさむ 60.9%
- 2位 住居が狭い 30.4%
- 3位 自分の自由な時間が持てない 21.7%

子育てを通じて特に負担に感じていること、悩んでいること(性別)



子育て中及び子育て終了世帯で『子どものことでの心配、気になること』は「交通事故に遭わないかどうか心配なこと」が48.6%。女性の「子育てに関するパートナーとの関係」についての心配等も大きい。

子どものこと
での心配等

[男性] N=129 複数回答

- 1位 交通事故に遭わないかどうか心配なこと 51.2%
- 2位 犯罪に巻き込まれないかどうか心配なこと 42.6%
- 3位 病気や発育・発達に関すること 39.5%

[女性] N=46 複数回答

- 1位 交通事故に遭わないかどうか心配なこと 41.3%
- 1位 病気や発育・発達に関すること 41.3%
- 3位 子育てに関してパートナーの協力が少ない 34.8%

子育て中及び子育て終了世帯で『仕事と子育て両立での困りごと』は男女ともに「自分が病気などの時に代わりがない」、「子どもと接する時間が少ない」。

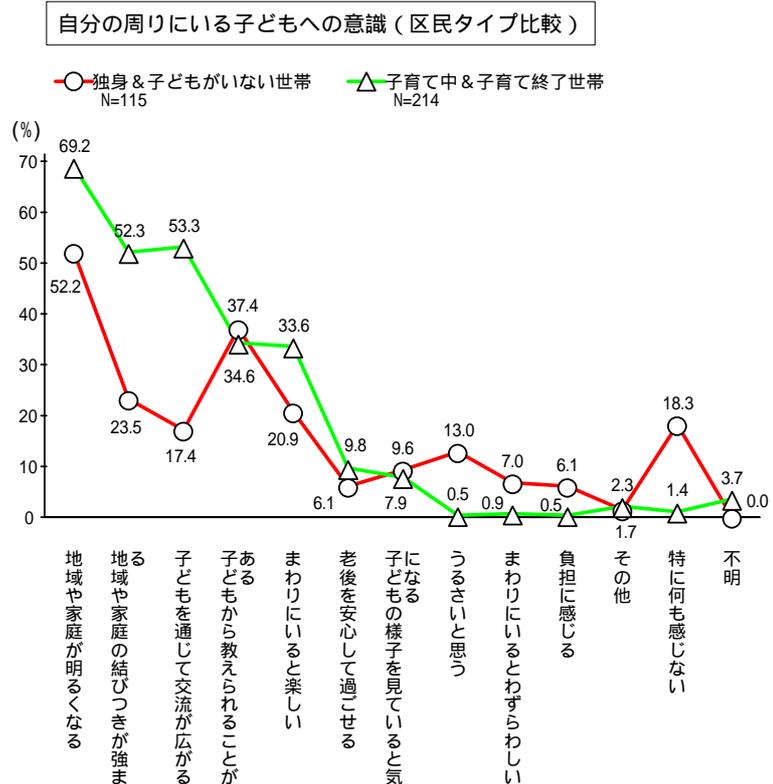
仕事と子育て両立での困りごと

- [男性] N = 50 複数回答
- 1位 自分が病気などの時に代わりがない 30.0%
 - 2位 子どもと接する時間が少ない 24.0%
 - 3位 勤務時間が長い 他 22.0%
- [女性] N = 26 複数回答
- 1位 自分が病気などの時に代わりがない 65.4%
 - 2位 子どもと接する時間が少ない 26.9%
 - 3位 職場の理解が得られず、休みにくい 19.2%

地域交流について

自分の周りにいる子どもへの意識については、独身及び子どものいない世帯、子育て中及び子育て終了世帯ともに「地域や家庭が明るくなる」。特に子育て中及び子育て終了世帯でのプラス意識が大きい。

周りの子どもへの意識



近所とのつきあいについては、独身及び子どものいない世帯、子育て中及び子育て終了世帯ともに「あいさつをする程度」が多い。独身及び子どものいない世帯では「ほとんどつきあいはない」も30%以上。

地域活動の経験については、独身及び子どものいない世帯、子育て中及び子育て終了世帯ともに「どれもしたことがない」が多い。子育て中及び子育て終了世帯では「近所の祭り」、「町内会活動」などへの参加が20%程度。

参加したいボランティア活動は、独身及び子どものいない世帯、子育て中及び子育て終了世帯ともに「環境を守る活動」、「高齢者・障害者福祉に関する活動」、「子育てに関する活動」に参加意向の強い女性。「スポーツ、文化に関する活動」などに参加意向の強い独身及び子どものいない世帯男性。

参加したいボランティア活動

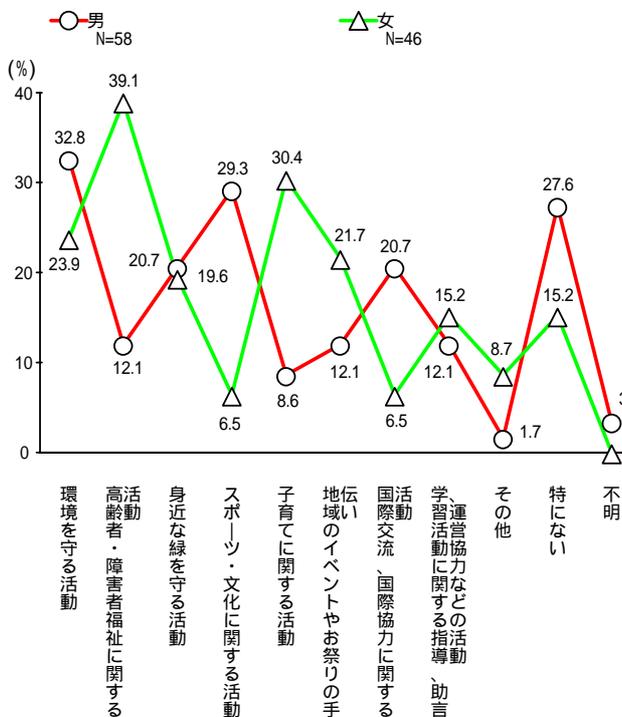
[独身及び子どものいない世帯] N = 115 複数回答

- 1位 環境を守る活動 28.7%
- 2位 特にない 24.3%
- 3位 高齢者・障害者福祉に関する活動 22.6%

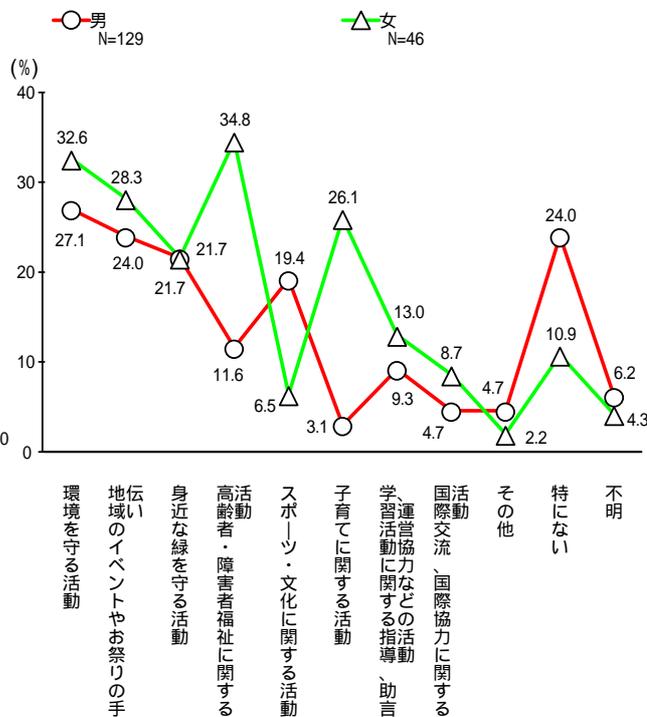
[子育て中及び子育て終了世帯] N = 214 複数回答

- 1位 環境を守る活動 30.8%
- 2位 地域のイベントやお祭りの手伝い 24.3%
- 3位 身近な緑を守る活動 22.9%

独身&子どもがいない世帯 参加したいボランティア活動



子育て中&子育て終了世帯 参加したいボランティア活動



行政サービスへの要望について

独身及び子どものいない世帯、子育て中及び子育て終了世帯ともに高い子育て費用負担の軽減要望。

行政サービスへの要望

[独身及び子どものいない世帯] N = 115 複数回答

- 1位 子どもの出産等にかかる医療費の負担軽減 49.6%
- 2位 保育園等の費用や教育費の負担軽減 48.7%
- 3位 保育サービスや施設の整備 41.7%

[子育て中及び子育て終了世帯] N = 214 複数回答

- 1位 保育園等の費用や教育費の負担軽減 40.2%
- 2位 子どもの出産等にかかる医療費の負担軽減 39.7%
- 3位 犯罪のない社会づくり 37.4%

- 4 子育て施設従事者の調査結果

1. 調査仕様

子育て関係施設従事者	
調査地域	区内
調査対象	区内の子育て関係施設の従事者
標本数	515件
抽出方法	施設の種類別に従業者数などを勘案し48施設抽出
調査方法	施設を経由して配付、回収
調査期間	平成16年3月1日～15日
回収数 ・回収率	466件 有効回答率 = 90.5%

2. 調査結果の概要

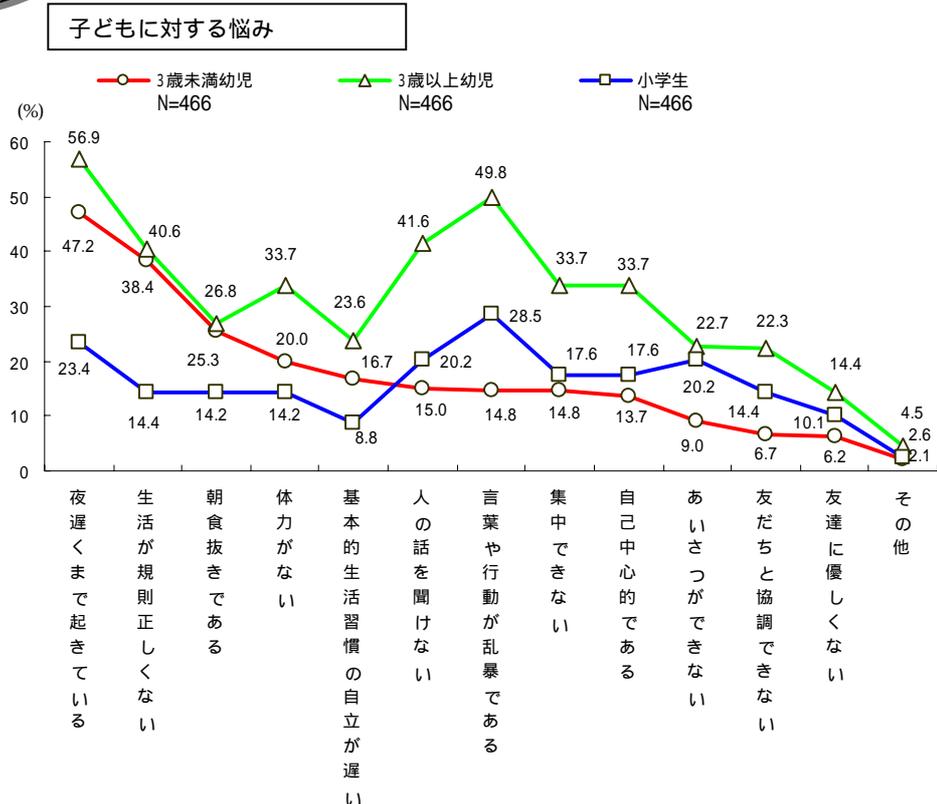
施設従事者のプロフィール

ほとんどが女性。年代は30歳未満から50歳代までほぼ均等に構成。
「保育士」が約半分、「幼稚園教諭」が約1/4。

子育て支援に関する悩み、不安等について

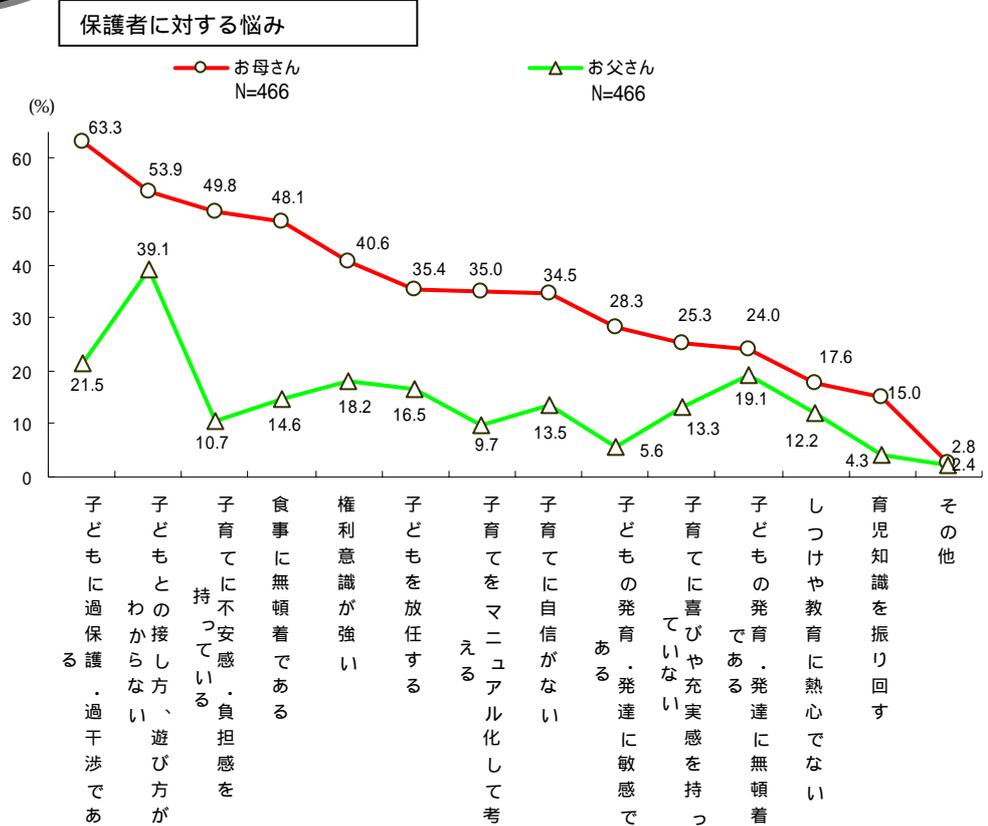
子どもに対する悩みについては、「3歳未満幼児」、「3歳以上幼児」については「夜遅くまで起きている」、「小学校」については「言葉や行動が乱暴である」。

子どもに対する悩み



保護者に対する悩みについては、「子どもに過保護、過干渉である」を筆頭に主に子育てをしている「お母さん」に対するものが多い。

保護者に対する悩み



保護者との連携で重視していることについては、「登園・降園時、来所時の連絡」などの連絡行為。

重視している家庭・保護者との連携内容

N = 466 複数回答

- 1位 登園・降園時、来所時の連絡 65.2%
- 2位 連絡帳 57.9%
- 3位 保護者会 41.0%

子育てに関する情報、相談の状況について

子育て情報の入手方法については、「職場内の同僚」、「テレビ、ラジオ、新聞」、女性従業員の「職場内の同僚」からの情報入手は81.1%。

子育て情報の入手方法

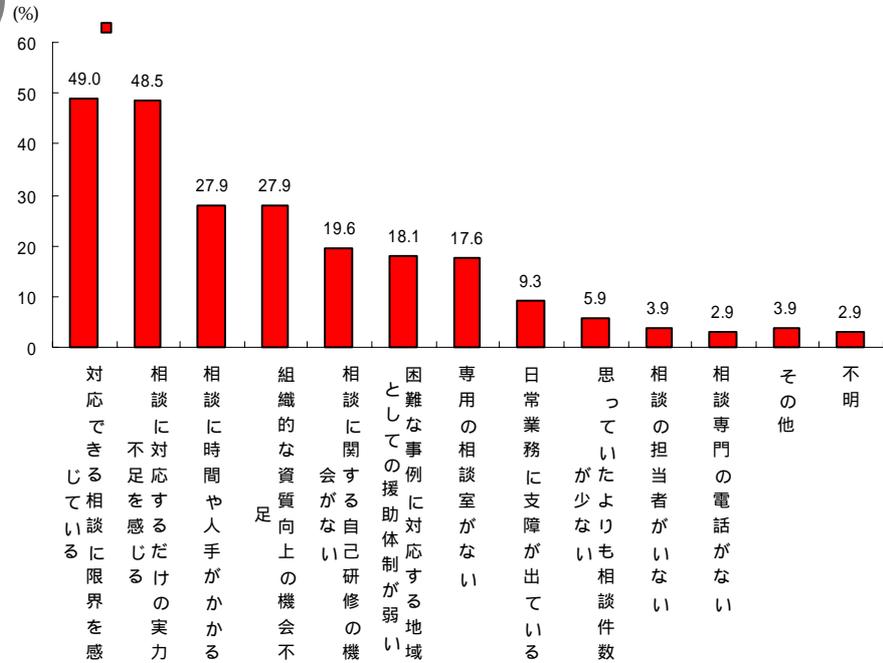
N = 466 複数回答

- 1位 職場内の同僚 79.2%
- 2位 テレビ、ラジオ、新聞 67.4%
- 3位 乳幼児の保育・育児に関する市販の雑誌 47.6%

子育て相談で現在直面している問題については43.8%が「問題がある」としている。現在直面している問題の内容については、「対応できる相談に限界を感じている」、「相談に対応するだけの実力不足を感じる」など、年々高度になる相談への対応についてのものである。

子育て相談で
直面している
問題

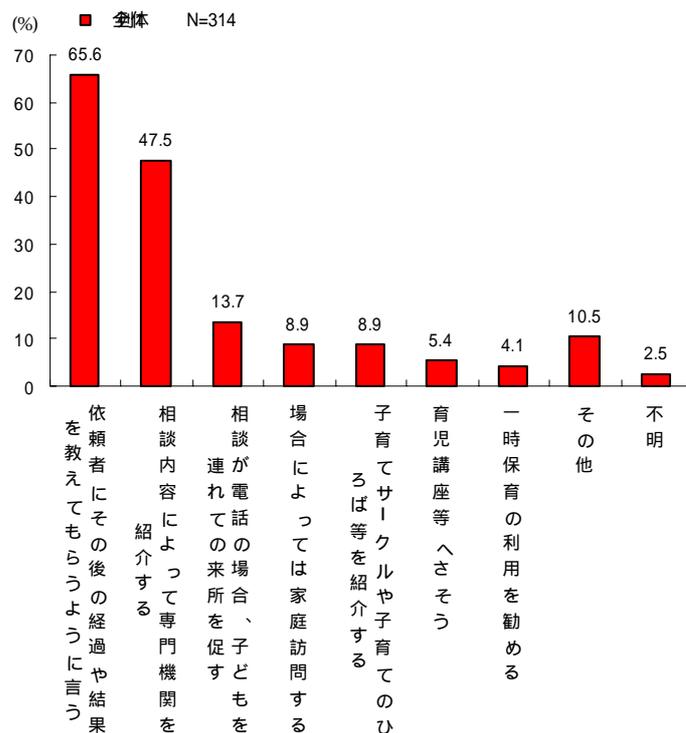
子育て相談で直面している問題の内容



子育て相談を受けた後の援助の有無については67.4%が「援助している」としている。援助の内容については、「依頼者にその後の経過や結果を教えてもらうように言う」、「相談内容によって専門機関を紹介する」。

子育て相談を受
けた後の援助

子育て相談を受けた後の援助の内容



子育て支援に関する連携、協力、虐待の状況について

子育て支援活動における他団体との連携状況については 43.6%が連携・協力している。
 連携・協力の内容は「困ったことがあったとき相談している」が 76.8%。

他団体との連携・協力内容

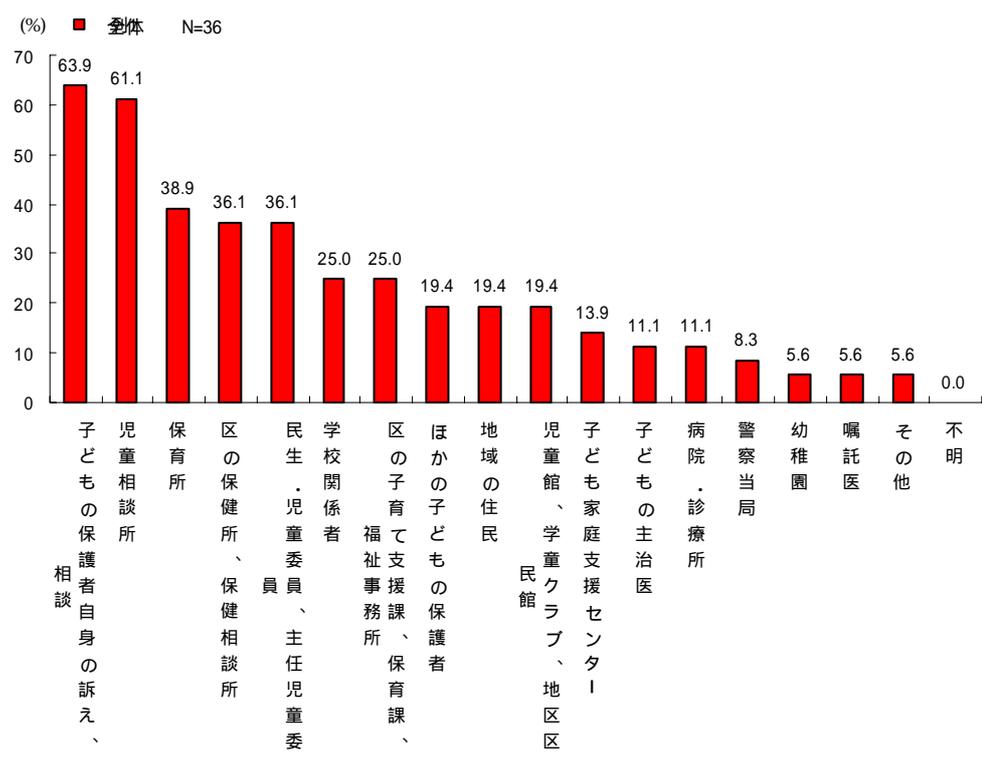
N = 203 複数回答

- 1位 困ったことがあったとき相談している 76.8%
- 2位 日常的な情報交換を行っている 25.1%
- 3位 地域の子育て支援者のカンファレンス 14.8%

保護者から虐待を受けている子どもの有無については 7.7%が「受けている」、9.7%が可能性有り。
 虐待を判断する際の情報については「子どもの保護者自身の訴え、相談」が 63.9%。

虐待を判断する際の情報

虐待を判断する際の情報



行政が力を入れるべき内容については、「子育ての相談や情報が得られる場の充実」が 79.0%。
 子どもの安全のために実施していることは、「職員間で日頃から防犯についての話し合い」が 70.6%。

力を入れるべき内容

N = 466 複数回答

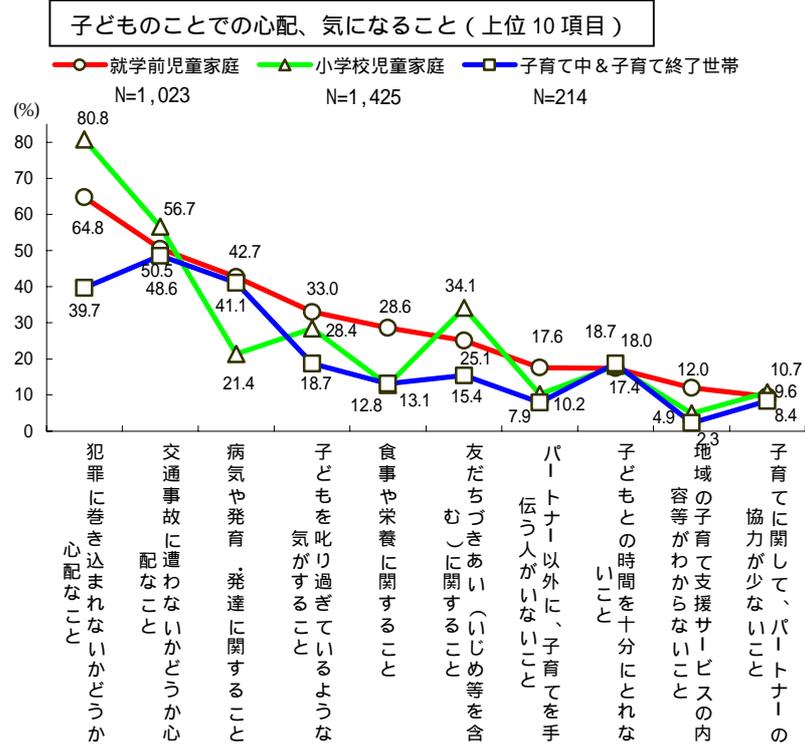
- 1位 子育ての相談や情報が得られる場の充実 79.0%
- 2位 事業者に対して職場環境の改善 54.5%
- 3位 犯罪に巻き込まれないよう防犯対策を強化 53.9%

- 5 子育て意識の変遷と子育てに関する意識の比較

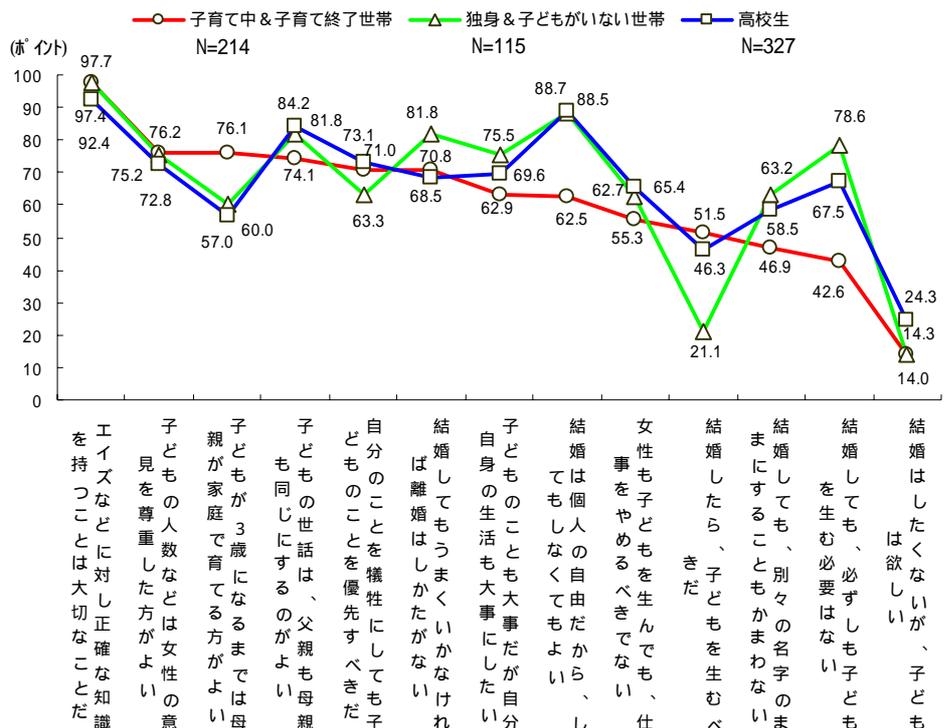
子育て意識の変遷について

子どものことでの心配、気になることについては、いずれの子育て家庭でも「安全・安心」に関する心配が中心で、特に小学校児童家庭では顕著。
結婚や子育てに関する考え方については、独身&子どもがいない世帯と高校生がほぼ同様の考え方を持ち、「個人の自由」の認識が高い。

子どものことでの心配等



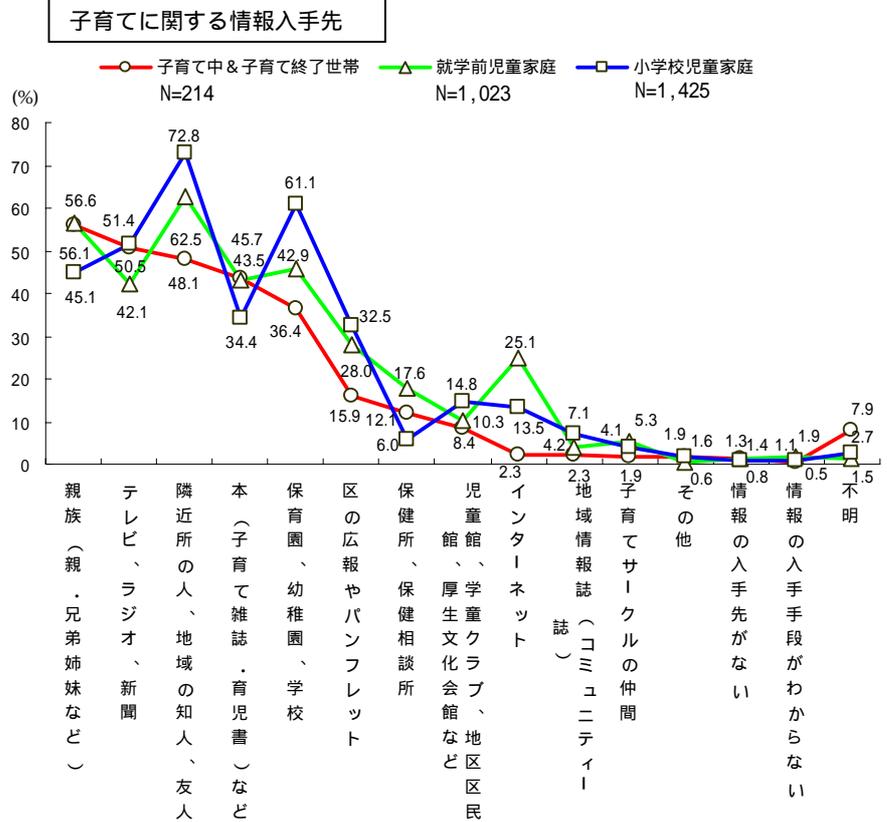
結婚や子育ての考え方



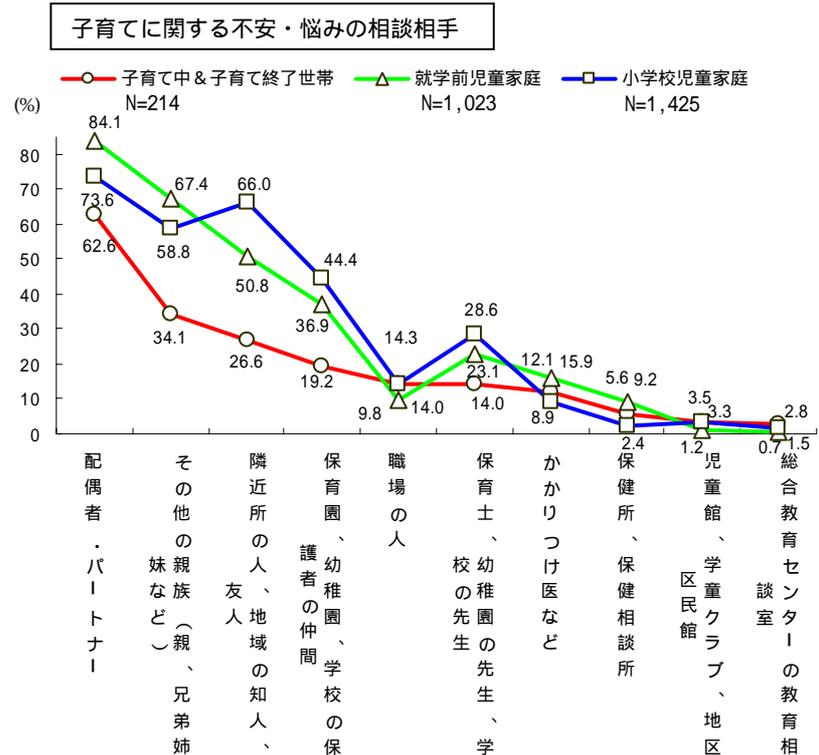
設問の各項目に対して「そう思う」×100、「どちらかといえばそう思う」×67、「どちらかといえばそう思わない」×33、「そう思わない」×0のようにウェイト付け(得点化)を行った。

子育てに関する情報入手先については、以前は「親族(親・兄弟姉妹)」や「テレビ、ラジオ、新聞」が中心だったが、最近では「隣近所の人、地域の知人、友人」や「保育園、幼稚園、学校」などが中心。子育てに関する不安・悩みの相談相手については、いずれの子育て家庭でも「配偶者・パートナー」であるが、小学校児童家庭では「隣近所の人、地域の知人、友人」も多い。

子育てに関する情報入手先



不安・悩みの相談相手



子育てに関する意識の比較について

子育てに関する情報入手先の意識については、施設従事者が「保育園、幼稚園、学校」という認識を持っている一方、就学前および小学校児童家庭では「隣近所の人、地域の知人、友人」。

子育てに関する不安・悩みの相談相手についての意識は、施設従事者が「保育士、幼稚園の先生、学校の先生」や「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」という認識を持っている一方、就学前児童家庭では「配偶者・パートナー」や「その他の親族（親、兄弟姉妹など）」。

子育てに関する情報入手先

意識の差が大きいもの

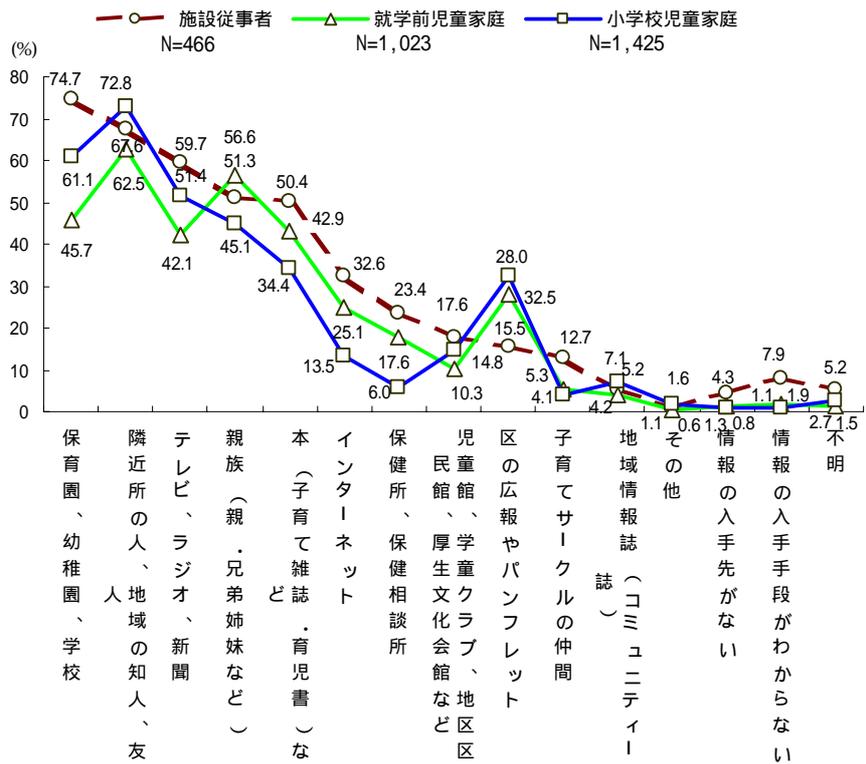
施設従事者と就学前児童家庭

- 1位 保育園、幼稚園、学校 29.0%
- 2位 テレビ、ラジオ、新聞 17.6%
- 3位 区の広報やパンフレット -12.5%

施設従事者と小学校児童家庭

- 1位 インターネット 19.1%
- 2位 保健所、保健相談所 17.4%
- 3位 区の広報やパンフレット -17.0%

子育てに関する情報入手先



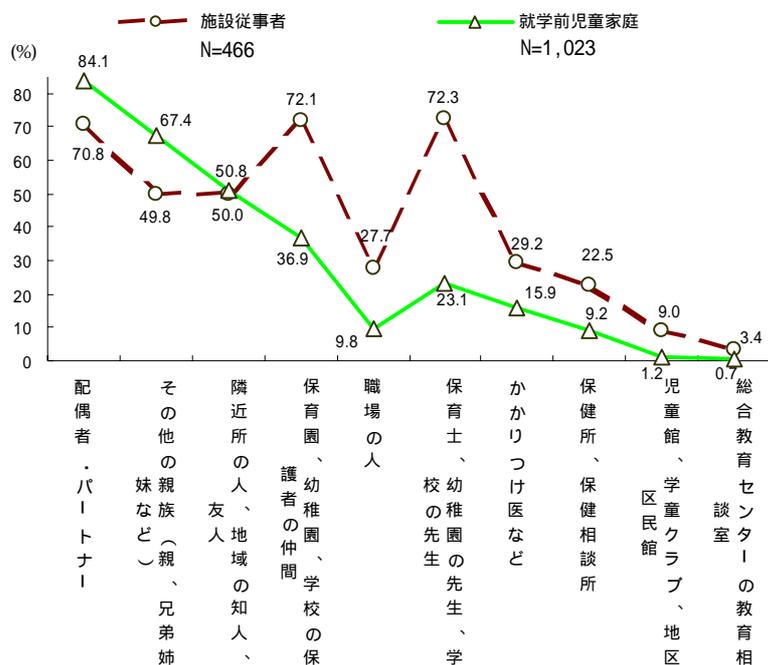
不安・悩みの相談相手

意識の差が大きいもの

施設従事者と就学前児童家庭

- 1位 保育士、幼稚園の先生、学校の先生 49.2%
- 2位 保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間 35.2%
- 3位 職場の人 17.9%

子育てに関する不安・悩みの相談相手



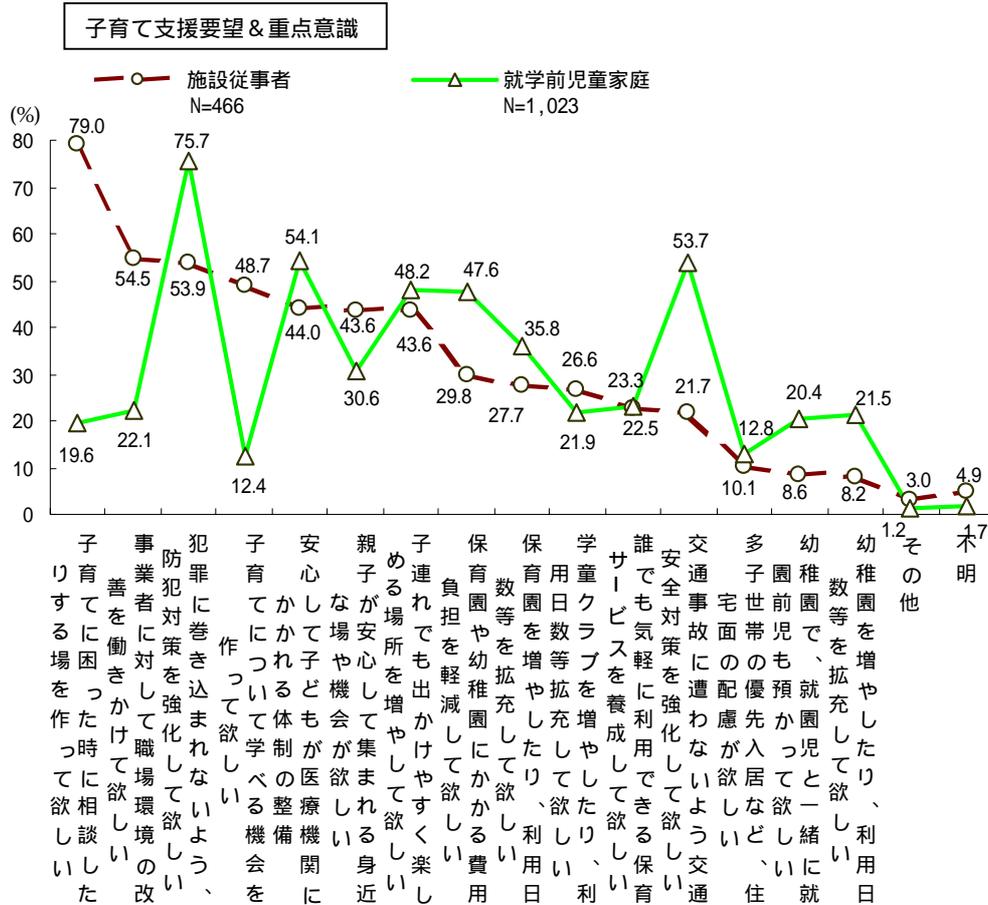
就学前児童家庭が要望する子育て支援サービスと、施設従事者が認識している子育て支援サービスの重点については、施設従事者が「子育てに困った時に相談したりする場づくり」や「事業者に対して職場環境の改善を働きかけ」と認識している一方、就学前児童家庭では「犯罪に巻き込まれないよう、防犯対策を強化して欲しい」や「安心して子どもが医療機関にかかる体制の整備」そして「交通事故に遭わないよう交通安全対策を強化して欲しい」。

子育て支援要望 & 重点意識

意識の差が大きいもの(上位5位まで)

施設従事者と就学前児童家庭

1位	子育てに困った時に相談したりする場を作って欲しい	59.4%
2位	子育てについて学べる機会を作って欲しい	36.3%
3位	事業者に対して職場環境の改善を働きかけて欲しい	32.4%
4位	交通事故に遭わないよう交通安全対策を強化して欲しい	32.0%
5位	犯罪に巻き込まれないよう、防犯対策を強化して欲しい	21.8%



練馬区次世代育成支援行動計画策定に係るニーズ調査報告書〈概要版〉

平成16年3月発行

発行 練馬区児童青少年部子育て支援課

〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6丁目12番1号

TEL 03-3993-1111(代)

FAX 03-5984-1220

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/>